

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2014-87651

(P2014-87651A)

(43) 公開日 平成26年5月15日(2014.5.15)

(51) Int.Cl. F 1 テーマコード (参考)
A 6 1 B 17/068 (2006.01) A 6 1 B 17/10 3 2 0 4 C 1 6 0

審査請求 有 請求項の数 1 〇 L (全 48 頁)

(21) 出願番号 特願2013-229070 (P2013-229070)
 (22) 出願日 平成25年11月5日 (2013.11.5)
 (62) 分割の表示 特願2009-199011 (P2009-199011)
 の分割
 原出願日 平成21年8月28日 (2009.8.28)
 (31) 優先権主張番号 61/092,796
 (32) 優先日 平成20年8月29日 (2008.8.29)
 (33) 優先権主張国 米国 (US)
 (31) 優先権主張番号 12/539,069
 (32) 優先日 平成21年8月11日 (2009.8.11)
 (33) 優先権主張国 米国 (US)

(71) 出願人 507362281
 コヴィディエン リミテッド パートナー
 シップ
 アメリカ合衆国 コネチカット 0647
 3, ノース ヘイブン, ミドルタウン
 アベニュー 60
 (74) 代理人 100107489
 弁理士 大塩 竹志
 (72) 発明者 グレゴリー ソレンティノ
 アメリカ合衆国 コネチカット 0649
 2, ウォーリンフォード, フェアロー
 ン ドライブ 50

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 単一行程の内視鏡外科手術用クリップアプライア

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 任意の外科手術事象の指標を使用者に提供し、器具の作動を改善する。

【解決手段】 外科手術用クリップを身体組織に適用するための装置100であって、該装置は、トリガ108および駆動棒を備えるハンドルアセンブリ102であって、該駆動棒は、該トリガの起動の際に、該トリガによって往復並進可能である、ハンドルならびにシャフトアセンブリ104であって、該シャフトアセンブリは、ハウジング；該ハウジング内に配置された複数の外科手術用クリップ；該ハウジングの遠位端部分に隣接して設置された顎；該ハウジング内に配置された押し棒であって、近位位置と遠位位置との間で往復移動するためのものである、押し棒；および該ハウジング内に配置された前進プレートであって、近位位置と遠位位置との間で往復移動するためのものである、前進プレート、を備える、シャフトアセンブリ、を備える、装置。

【選択図】 図1

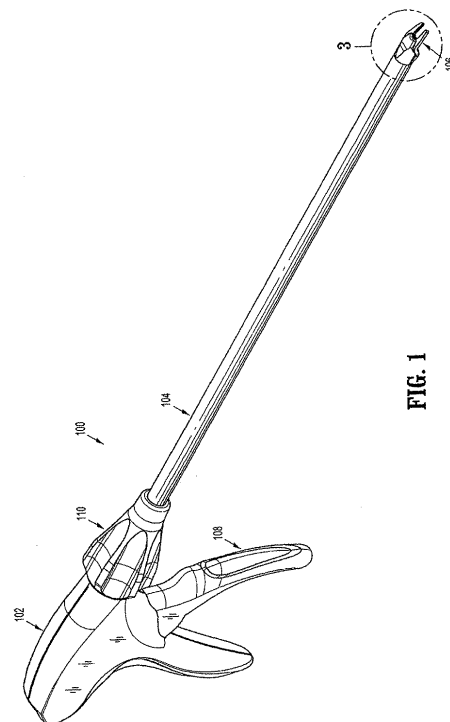


FIG. 1

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

明細書に記載の発明。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

(関連出願の引用)

本願は、2008年8月29日に出願された、米国仮出願番号61/092,796号の利益および優先権を主張する。この米国仮出願の全内容は、本明細書中に参考として援用される。

10

【0002】

(技術分野)

本開示は、外科手術用クリップアプライアに関し、そしてより特定すると、新規な内視鏡外科手術用クリップアプライアに関する。

【背景技術】

【0003】

内視鏡ステーブラーおよびクリップアプライアは、当該分野において公知であり、そして多数の異なる有用な外科手術手順のために使用されている。腹腔鏡外科手術手順の場合、腹の内側へのアクセスは、皮膚の小さい入口切開を通して挿入された狭い管またはカニューレを介して達成される。身体の他の箇所で行われる最小侵襲性手順は、しばしば、一般に内視鏡手順と称される。代表的に、管またはカニューレデバイスが、入口切開を介して患者の身体内に延び、アクセスポートを提供する。このポートは、外科医が、トロカールを使用してこのポートを通して多数の様々な外科手術用器具を挿入すること、および切開から遠く離れた位置で外科手術手順を実施することを可能にする。

20

【0004】

これらの手順の大部分の最中に、外科医はしばしば、1つ以上の脈管を通る血液または別の流体の流れを止めなければならない。外科医はしばしば、外科手術用クリップを血管または別の管に適用して、その手順中にその血管または管を通る体液の流れを防止する。体腔に入っている間に1つのクリップを適用するための内視鏡クリップアプライアが、当該分野において公知である。このような1つのクリップは、代表的に、生体適合性材料から製造され、そして通常、脈管上に圧縮される。一旦、脈管に適用されると、圧縮されたクリップは、この脈管を通る流体の流れを止める。

30

【0005】

体腔に1回入っている間に内視鏡手順または腹腔鏡手順において複数のクリップを適用し得る内視鏡クリップアプライアは、同一人に譲渡された、Greenらに対する特許文献1および特許文献2に記載されており、これらの特許文献は、その全体が本明細書中に参考として援用される。別の複数内視鏡クリップアプライアは、同一人に譲渡された、Prattらに対する特許文献3に開示されており、その内容もまた、その全体が本明細書中に参考として援用される。これらのデバイスは、代表的に、1回の外科手術手順中に使用されるが、このことは必須ではない。Pierに対する特許文献4(その開示は、本明細書中に参考として援用される)は、再滅菌可能な外科手術用クリップアプライアを開示する。このクリップアプライアは、体腔に1回挿入されている間に、複数のクリップを前進させ、そして形成する。この再滅菌可能なクリップアプライアは、体腔に1回入っている間に複数のクリップを前進させ形成するために、交換可能なクリップマガジンを受容し、これと協働するように構成される。1つの重要な設計目的は、装填手順からクリップを全く圧縮することなく、外科手術用クリップが顎の間に装填されることである。装填中のクリップのこのような屈曲またはトルクはしばしば、多数の意図されない結果を有する。装填中のこのような圧縮は、顎の間でのクリップの整列をわずかに変更させ得る。このことにより、外科医は、このクリップを処分するために、このクリップを顎の間から除去する。さらに、このような装填前の圧縮は、クリップの一部をわずかに圧縮し得、そして

40

50

このクリップの幾何学的形状を変化させ得る。このことにより、外科医は、このクリップを処分するために、この圧縮されたクリップを顎の間から除去する。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0006】

【特許文献1】米国特許第5084057号明細書

【特許文献2】米国特許第5100420号明細書

【特許文献3】米国特許第5607436号明細書

【特許文献4】米国特許第5695502号明細書

【発明の概要】

10

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

内視鏡手順または腹腔鏡手順は、しばしば、切開から離れた位置で実施される。その結果、クリップの適用は、近位端での使用者に対する減少した視野により、またはデバイスの減少した触知可能なフィードバックにより、複雑にされ得る。従って、個々のクリップの発射、装填ユニットに収容されるクリップの消耗、または他の任意の外科手術事象の指標を使用者に提供することによって、器具の作動を改善することが望ましい。クリップの首尾よい装填を促進し、そしてクリップのあらゆる損傷または過剰な圧縮を防止し、そして発射前に顎がクリップを圧縮することを防止する目的で、外科手術用クリップアプライアの顎を開くように楔止めし、次いでクリップを顎の間に装填する、外科手術用クリップアプライアを提供することもまた、望ましい。

20

【課題を解決するための手段】

【0008】

上記課題を解決するために、本発明は、例えば、以下を提供する：

(項目1)

外科手術用クリップを身体組織に適用するための装置であって、該装置は、トリガおよび駆動棒を備えるハンドルアセンブリであって、該駆動棒は、該トリガの起動の際に、該トリガによって往復並進可能である、ハンドル；ならびに

シャフトアセンブリであって、該シャフトアセンブリは、該ハンドルアセンブリから遠位に延び、そして長手方向軸を規定し、該シャフトアセンブリは、

30

ハウジング；

該ハウジング内に配置された複数の外科手術用クリップ；

該ハウジングの遠位端部分に隣接して設置された顎であって、該顎は、開いた間隔を空けた状態と閉じた近接した状態との間で移動可能である、顎；

該ハウジング内に配置された押し棒であって、該押し棒は、ある長さを有する行程を規定する、近位位置と遠位位置との間で往復移動するためのものであり、該押し棒は、該近位位置から該遠位位置への移動の際に、該顎内に最も遠位の外科手術用クリップを装填するように構成されている、押し棒；および

該ハウジング内に配置された前進プレートであって、該前進プレートは、近位位置と遠位位置との間で往復移動するためのものであり、該前進プレートは、該押し棒の遠位への移動および近位への移動中に、該押し棒により係合されて、該前進プレートの遠位への移動および近位への移動のうちの1つを行い、該前進プレートは、該行程の長さより短い距離だけ移動する、前進プレート、

40

を備える、シャフトアセンブリ、
を備える、装置。

【0009】

(項目2)

前記ハウジング内に往復可能に配置された楔プレートであって、該楔プレートは、該楔プレートの遠位端が前記顎内に配置された位置と、該楔プレートの該遠位端が該顎から外れた位置との間で移動可能である、楔プレート；および

50

該ハウジング内に往復可能に配置されたコネクタプレートであって、該コネクタプレートは、前記装置の発射行程の少なくとも一部の間、前記押し棒および該楔プレートのうち少なくとも1つと取り外し可能に接続される、コネクタプレート、

【0010】

(項目3)

前記装置の前記発射行程の少なくとも一部の間、前記コネクタプレートが、前記押し棒および前記楔プレートの各々に取り外し可能に接続される、上記項目のうちいずれかに記載の装置。

【0011】

(項目4)

前記押し棒が、前記コネクタプレートに提供された第一のフィーチャーと取り外し可能に接続されるための、該押し棒に支持されたばねクリップを備え、そして前記楔プレートが、該コネクタプレートに提供された第二のフィーチャーと取り外し可能に接続されるための、該楔プレートに支持されたばねクリップを備える、上記項目のうちいずれかに記載の装置。

【0012】

(項目5)

前記押し棒の前記ばねクリップが、前記コネクタプレートの最初の遠位への移動中に該コネクタプレートの前記第一のフィーチャーに接続されて、該押し棒を遠位方向に引く、

【0013】

(項目6)

前記ハウジングが、前記押し棒の最初の遠位への移動を越える遠位への移動を遮断する静止フィーチャーを備え、そして前記コネクタプレートの前記第一のフィーチャーは、該最初の遠位への移動を越える遠位への移動を続けると、該押し棒の前記ばねクリップから接続を外す、上記項目のうちいずれかに記載の装置。

【0014】

(項目7)

前記押し棒が、該押し棒に支持されたさらなるばねクリップを備え、該さらなるばねクリップは、該押し棒が最も遠位の位置にある場合に、前記ハウジングの前記静止フィーチャーに取り外し可能に接続されるためのものである、上記項目のうちいずれかに記載の装置。

【0015】

(項目8)

前記押し棒の前記さらなるばねクリップと、前記ハウジングの前記静止フィーチャーとの接続が、前記装置の発射中に、該押し棒を前記最も遠位の位置に維持する、上記項目のうちいずれかに記載の装置。

【0016】

(項目9)

前記楔プレートの前記ばねクリップが、前記コネクタプレートの最初の遠位への移動中に、該コネクタプレートの前記第二のフィーチャーに接続されて、該楔プレートを遠位方向に引き、その結果、該楔プレートの前記遠位端が前記顎内に配置される、上記項目のうちいずれかに記載の装置。

【0017】

(項目10)

前記コネクタプレートの前記第二のフィーチャーが、前記楔プレートの最初の遠位への移動後に、該楔プレートの前記ばねクリップから接続を外す、上記項目のうちいずれかに記載の装置。

【0018】

10

20

30

40

50

(項目11)

前記楔プレートが、前記顎の近接の前の時点で近位方向に移動し、該顎から該楔プレートの前記遠位端を外す、上記項目のうちのいずれかに記載の装置。

【0019】

(項目12)

前記押し棒および前記楔プレートの各々の最初の遠位への移動後に、該押し棒および該楔プレートの各々が前記コネクタプレートから接続を外す、上記項目のうちのいずれかに記載の装置。

【0020】

(項目13)

前記押し棒および前記楔プレートのそれぞれの近位への移動の際に、該押し棒および該楔プレートの各々が前記コネクタプレートに再接続される、上記項目のうちのいずれかに記載の装置。

【0021】

(項目14)

前記前進プレートが、前記押し棒に隣接して配置され、該前進プレートが、該押し棒の肩部により係合可能な少なくとも1つのフィンを備え、該押し棒の該肩部は、該押し棒の遠位への移動および近位への移動中に、該前進プレートの該少なくとも1つのフィンに係合して、該前進プレートの遠位への移動および近位への移動のうちの1つを行う、上記項目のうちのいずれかに記載の装置。

【0022】

(項目15)

前記シャフトアセンブリが、前記ハウジング内に、前記前進プレートに隣接して配置されたクリップキャリアを備え、該クリップキャリアは、前記複数の外科手術用クリップを保持するように構成されている、上記項目のうちのいずれかに記載の装置。

【0023】

(項目16)

前記シャフトアセンブリが、前記クリップキャリア内で、前記複数の外科手術用クリップの近位の位置でスライド可能に支持されたクリップ従動子を備え、該クリップ従動子は、該複数の外科手術用クリップを遠位方向に推進するように構成されており、該クリップ従動子は、該クリップ従動子の第一の表面から突出する第一のタブ、および該クリップ従動子の第二の表面から突出する第二のタブを備え、該クリップ従動子の該第一のタブは、前記前進プレートが遠位に移動する際に該前進プレートに係合し、その結果、該クリップ従動子が遠位に移動して、該複数の外科手術用クリップを前進させ、そして該クリップ従動子の該第二のタブは、該前進プレートが近位に移動する際に該クリップキャリアに係合し、その結果、該クリップ従動子は静止したままである、上記項目のうちのいずれかに記載の装置。

【0024】

(項目17)

前記シャフトアセンブリが、前記ハウジング内に、前記クリップキャリアに隣接して往復可能に配置された駆動チャンネルを備え、前記駆動棒が、該駆動チャンネルと選択的に係合して、該駆動チャンネルの並進を行い、該駆動チャンネルの遠位端が、遠位への前進の際に前記顎の表面に係合して、該顎の近接を行なう、上記項目のうちのいずれかに記載の装置。

【0025】

(項目18)

前記クリップ従動子が、前記シャフトアセンブリを通して漸増的に前進させられる、上記項目のうちのいずれかに記載の装置。

【0026】

(項目19)

前記クリップ従動子が、該クリップ従動子の表面から延びるキャッチを備え、該キャッ

10

20

30

40

50

チは、最後の外科手術用クリップの発射後に前記押し棒に係合し、そして該押し棒の近位方向への移動を防止する、上記項目のうちのいずれかに記載の装置。

【0027】

外科手術用クリップを身体組織に適用するための装置が提供され、この装置は、ハンドルアセンブリ；ハウジングを備えるシャフトアセンブリであって、このシャフトアセンブリは、このハンドルアセンブリから遠位に延び、そして長手方向軸を規定する、シャフトアセンブリ；このシャフトアセンブリ内に配置された複数の外科手術用クリップ；このシャフトアセンブリの遠位端部分に隣接して設置された顎であって、この顎は、開いた間隔を空けた状態と、閉じた近接した状態との間で移動可能である、顎；およびこのシャフトアセンブリのハウジング内に往復可能に配置され、そしてこのシャフトアセンブリのハウジングに取り外し可能に接続可能な押し棒であって、この押し棒は、遠位への移動中に、顎内に最も遠位の外科手術用クリップを装填するように、そして顎の近接中にシャフトアセンブリのハウジングに接続されたままであり、そして遠位に前進した位置にあるように構成される、押し棒を備える。

10

【0028】

(要旨)

本開示は、新規な内視鏡外科手術用クリップアプライアに関する。

【0029】

本開示の1つの局面によれば、身体組織に外科手術用クリップを適用するための装置が提供される。この装置は、ハンドルアセンブリ；このハンドルアセンブリから遠位に延びて長手方向軸を規定するシャフトアセンブリ；このシャフトアセンブリ内に配置された複数の外科手術用クリップ；このシャフトアセンブリの遠位端部に隣接して設置された顎であって、開いた間隔を空けた状態と、閉じて近接した状態との間で移動可能である、顎；およびこのシャフトアセンブリ内に往復可能に配置された押し棒であって、この押し棒は、顎が開いた状態にある間に、最も遠位の外科手術用クリップを顎に装填するように、そしてこれらの顎の近接中に、装填された外科手術用クリップと接触したままであるように構成されている、押し棒を備える。

20

【0030】

この押し棒は、その遠位端に形成されたプッシャーを備え得る。このプッシャーは、装填された外科手術用クリップに1つの位置で接触するための、狭いプロフィールを有し得る。このプッシャーは、装填された外科手術用クリップの面に対して実質的に直交して配置された面を規定し得る。

30

【0031】

この装置は、このシャフトアセンブリ内に往復可能に配置されたコネクタプレートをさらに備え得る。このコネクタプレートは、この押し棒に選択的に接続され得る。使用において、このコネクタプレートの最初の遠位への移動中に、この押し棒は遠位に前進し得、そしてこのコネクタプレートのさらに遠位への移動中に、このコネクタプレートは、この押し棒から接続を外され得る。

【0032】

この押し棒は、この押し棒に支持された第一のばねクリップを備え得、この第一のばねクリップは、この押し棒が前進位置にある場合にこのシャフトアセンブリのフィーチャーと選択的に係合して、この押し棒を前進位置に選択的に維持するためのものである。この押し棒は、この押し棒に支持された第二のばねクリップをさらに備え得、この第二のばねクリップは、このコネクタプレートの第一のフィーチャーと選択的に係合するためのものである。このコネクタプレートの第一のフィーチャーは、このコネクタプレートの最初の遠位への移動後に、この第二のばねクリップから選択的に脱係合し得る。

40

【0033】

この装置は、このシャフトアセンブリ内に往復可能に配置された前進プレートをさらに備え得る。この前進プレートは、この押し棒の肩部により選択的に係合可能な少なくとも1つのフィンを備え得る。使用において、この押し棒の肩部は、この押し棒の遠位への移

50

動および近位への移動中に、この前進プレートの少なくとも1つのフィンと係合して、この前進プレートの遠位への移動および近位への移動のうち的一方を行い得る。

【0034】

この装置は、このシャフトアセンブリにスライド可能に支持されたクリップ従動子をさらに備え得、このクリップ従動子は、複数の外科手術用クリップを遠位方向に推進するためのものである。このクリップ従動子は、その第一の表面から突出する第一のタブ、およびその第二の表面から突出する第二のタブを備え得る。使用において、このクリップ従動子の第一のタブは、この前進プレートが遠位に移動する際に、この前進プレートと係合し得、その結果、このクリップ従動子が遠位に移動して、複数の外科手術用クリップを前進させ、そしてこのクリップ従動子の第二のタブは、この前進プレートが近位に移動する際に静止フィーチャーと係合し得、その結果、このクリップ従動子は、静止したままである。

10

【0035】

この装置は、このシャフトアセンブリに配置されたクリップキャリアをさらに備え得、このクリップキャリアは、複数の外科手術用クリップおよびクリップ従動子を保持するように構成され、そしてこのクリップ従動子の第二のタブは、このクリップキャリアに形成されたフィーチャーに係合し得る。

【0036】

このクリップ従動子は、このシャフトアセンブリを通して漸増的に前進し得る。このクリップ従動子は、その表面から延びるキャッチを備え得、このキャッチは、最後の外科手術用クリップの発射後に、この押し棒と係合し得、そしてこの押し棒が近位方向に移動することを防止し得る。

20

【0037】

この装置は、このハンドルアセンブリに配置されたラチェットアセンブリをさらに備え得る。このラチェットアセンブリは、この押し棒が近位位置に戻らない場合に、リセットすることを防止され得る。

【0038】

この装置は、このハウジングアセンブリに支持された計数器をさらに備え得る。この計数器は、外科手術用クリップが発射される際に、指標を提供し得る。

【0039】

この装置は、このハウジングに支持されたインジケータをさらに備え得る。このインジケータは、外科手術用クリップのうち少なくとも1つが顎に装填された場合、外科手術用クリップが発射された場合、およびこの装置がリセットされた場合に、可聴指標または触知可能指標のうち少なくとも1つを提供し得る。

30

【0040】

この装置は、このシャフトアセンブリ内に往復可能に配置された楔プレートをさらに備え得る。この楔プレートは、この楔プレートの遠位端が顎内に配置された位置と、この楔プレートの遠位端が顎から外れた位置との間で移動可能であり得る。この楔プレートは、この楔プレートに支持された第三のばねクリップをさらに備え得、この第三のばねクリップは、コネクタプレートの第二のフィーチャーと選択的に係合するためのものであり、このコネクタプレートの第二のフィーチャーは、このコネクタプレートが最初に遠位に移動した後に、この第三のばねクリップから選択的に脱係合する。

40

【0041】

この装置は、駆動棒をさらに備え得、この駆動棒は、このハンドルアセンブリにより起動可能であり、そしてこのコネクタプレートの移動を行うために、このコネクタプレートに接続される。この装置は、このシャフトアセンブリ内に往復可能に配置された駆動チャンネルをさらに備え得、この駆動棒は、この駆動チャンネルと選択的に係合して、この駆動チャンネルの並進を行う。この駆動チャンネルの遠位端は、この駆動チャンネルの遠位への前進の際に顎の表面と係合して、これらの顎の近接を行い得る。

【0042】

50

この駆動チャンネルは、この駆動チャンネルの遠位への前進の際に、楔ロック解除機構を起動させて、楔プレートの近位への移動を引き起こし得、そして楔プレートの遠位端を顎から引き抜き、そして駆動チャンネルが顎を近接させることを可能にし得る。

【0043】

このシャフトアセンブリは、ハンドルアセンブリに対して、長手方向軸の周りで回転可能であり得る。このシャフトアセンブリは、内部に支持されたガードを備え得、このガードは、第三のばねクリップがこのガードを横切って並進する際に、この第三のばねクリップが外向きに広がることを防止し得る。

【0044】

楔プレートおよび/または駆動チャンネルは、近位位置に付勢され得る。

10

【0045】

本開示の別の局面によれば、身体組織に外科手術用クリップを適用するための装置が提供される。この装置は、ハンドルアセンブリ；このハンドルアセンブリから遠位に延びて長手方向軸を規定するシャフトアセンブリ；このシャフトアセンブリ内に配置された複数の外科手術用クリップ；このシャフトアセンブリの遠位端部分に隣接して設置された顎であって、開いた間隔を空けた状態と、閉じた近接した状態との間で移動可能である、顎；およびこのシャフトアセンブリ内にスライド可能に支持されたクリップ従動子であって、複数の外科手術用クリップを遠位方向に推進するための、クリップ従動子を備える。このクリップ従動子は、その第一の表面から突出する第一のタブ、およびその第二の表面から突出する第二のタブを備える。このクリップ従動子の第一のタブは、前進プレートが遠位に移動する際に、この前進プレートと係合し、その結果、このクリップ従動子が遠位に移動して複数の外科手術用クリップを前進させ、そしてこのクリップ従動子の第二のタブは、この前進プレートが近位に移動する際に、静止フィーチャーと係合し、その結果、このクリップ従動子は静止したままである。

20

【0046】

この装置は、このシャフトアセンブリ内に往復可能に配置された前進プレートをさらに備え得る。この前進プレートは、その長さに沿って形成された複数の窓を規定し得る。使用において、このクリップ従動子の第一のタブは、この前進プレートが往復する際に、これらの複数の窓のうちの1つの窓と選択的に係合し得る。

【0047】

この装置は、このシャフトアセンブリに往復可能に配置された押し棒をさらに備え得る。この押し棒は、顎が開いた状態にある間に、最も遠位の外科手術用クリップをこれらの顎内に装填するように、そしてこれらの顎が近接している間に、装填された外科手術用クリップと接触したままになるように、構成され得る。

30

【0048】

この前進プレートは、この押し棒の肩部により選択的に係合可能な少なくとも1つのフィンを備え得る。この押し棒の肩部は、この押し棒の遠位への移動および近位への移動中に、この前進プレートの少なくとも1つのフィンと係合して、この前進プレートの遠位への移動および近位への移動のうちの1つを行い得る。

【0049】

この押し棒は、その遠位端に形成されたプッシャーを備え得、このプッシャーは、装填された外科手術用クリップと1つの位置で接触するための、狭いプロフィールを有する。このプッシャーは、装填された外科手術用クリップの面に対して実質的に直交して配向された面を規定し得る。

40

【0050】

この装置は、このシャフトアセンブリ内に往復可能に配置されたコネクタプレートをさらに備え得る。このコネクタプレートは、この押し棒に選択的に接続され得る。使用において、このコネクタプレートの最初の遠位への移動中に、この押し棒は遠位に前進し得、そしてこのコネクタプレートのさらに遠位への移動中に、このコネクタプレートは、この押し棒から接続を外され得る。

50

【 0 0 5 1 】

この押し棒は、この押し棒に支持された第一のばねクリップを備え得、この第一のばねクリップは、この押し棒が前進位置にある場合に、このシャフトアセンブリのフィーチャーと取り外し可能に接続して、この押し棒をこの前進位置に維持するためのものである。この押し棒は、この押し棒に支持された第二のばねクリップをさらに備え得、この第二のばねクリップは、このコネクタプレートの第一のフィーチャーと取り外し可能に接続されるためのものである。このコネクタプレートの第一のフィーチャーは、このコネクタプレートの最初の遠位への移動後に、この第二のばねクリップから接続を外される。

【 0 0 5 2 】

この装置は、このシャフトアセンブリ内に配置されたクリップキャリアをさらに備え得る。このクリップキャリアは、複数の外科手術用クリップおよびクリップ従動子を維持するために構成され得る。このクリップ従動子の第二のタブは、このクリップキャリアに形成されたフィーチャーと係合し得る。このクリップ従動子は、このシャフトアセンブリを通して漸増的に前進され得る。このクリップ従動子は、その表面から延びるキャッチを備え得る。このキャッチは、最後の外科手術用クリップの発射後にこの押し棒と係合し得、そしてこの押し棒が近位方向に移動することを防止し得る。

10

【 0 0 5 3 】

この装置は、このハンドルアセンブリ内に配置されたラチェットアセンブリをさらに備え得る。このラチェットアセンブリは、この押し棒が近位位置に戻らない場合に、リセットすることを防止し得る。

20

【 0 0 5 4 】

この装置は、このハウジングアセンブリ内に支持された計数器をさらに備え得、この計数器は、外科手術用クリップが装填または発射される際に、指標を提供し得る。この装置は、このハウジングアセンブリ内に支持されたインジケータをさらに備え得、このインジケータは、外科手術用クリップが顎内に装填された場合、外科手術用クリップが発射された場合、およびこの装置がリセットされた場合のうちの少なくとも1つにおいて、可聴指標または触知可能指標のうちの少なくとも1つを提供し得る。

【 0 0 5 5 】

この装置は、このシャフトアセンブリ内に往復可能に配置された楔プレートをさらに備え得る。この楔プレートは、その遠位端が顎内に配置されている位置と、その遠位端が顎から外れている位置との間で移動可能であり得る。この楔プレートは、この楔プレートに支持された第三のばねクリップをさらに備え得、この第三のばねクリップは、コネクタプレートの第二のフィーチャーと選択的に係合するためのものであり、このコネクタプレートの第二のフィーチャーは、コネクタプレートの最初の遠位への移動後に、この第三のばねクリップから選択的に脱係合し得る。

30

【 0 0 5 6 】

この装置は、駆動棒をさらに備え得、この駆動棒は、このハンドルアセンブリにより起動可能であり、そしてコネクタプレートの移動を行うために、このコネクタプレートに接続される。この装置は、このシャフトアセンブリ内に往復可能に配置された駆動チャンネルをさらに備え得、この駆動棒は、この駆動チャンネルと選択的に係合して、この駆動チャンネルの並進を行い得、そしてこの駆動チャンネルの遠位端は、その遠位への前進の際に、顎の表面と係合してこれらの顎の近接を行い得る。この駆動チャンネルは、その遠位への前進の際に楔プレートロックを起動して、楔プレートの近位への移動を引き起こし得、この楔プレートの遠位端を顎から引き抜き、そして駆動チャンネルが顎を近接させることを可能にし得る。

40

【 0 0 5 7 】

このシャフトアセンブリは、このハンドルアセンブリに対して、長手方向軸の周りで回転可能であり得る。このシャフトアセンブリは、内部に支持されたカフを備え得、このカフは、第三のばねクリップがこのカフを横切って並進する際に、この第三のばねが外向きに広がることを防止し得る。

50

【 0 0 5 8 】

楔プレートおよび/または駆動チャネルは、近位位置に付勢され得る。

【 0 0 5 9 】

本開示のさらなる局面によれば、身体組織に外科手術用クリップを適用するための装置が提供され、この装置は、ハンドルアセンブリ、およびこのハンドルアセンブリから遠位に延びて長手方向軸を規定するシャフトアセンブリを備える。このハンドルアセンブリは、トリガおよび駆動棒を備え、この駆動棒は、このトリガの起動の際に、このトリガにより往復並進可能である。このシャフトアセンブリは、ハウジング；このハウジング内に配置された複数の外科手術用クリップ；このハウジングの遠位端部分に隣接して設置された顎であって、開いた間隔を空けた状態と、閉じた近接した状態との間で移動可能な顎；このハウジング内に往復可能に配置された押し棒であって、これらの顎が開いた状態にある間にこれらの顎に最も遠位の外科手術用クリップを装填するように、そしてこれらの顎の近接中に、装填された外科手術用クリップと接触したままになるように構成される、押し棒；このハウジング内で、この押し棒に隣接して往復可能に配置された前進プレートであって、この前進プレートは、この押し棒の型部により選択的に係合可能な少なくとも1つのフィンを備え、この押し棒の肩部は、この押し棒の遠位への移動および近位への移動中に、この前進プレートの少なくとも1つのフィンと係合して、この前進プレートの遠位への移動および近位への移動のうちの一つを行う、前進プレート；このハウジング内で、この前進プレートに隣接して配置されたクリップキャリアであって、複数の外科手術用クリップを保持するように構成されている、クリップキャリア；このクリップキャリア内で複数の外科手術用クリップの近位の位置でスライド可能に支持されるクリップ従動子であって、このクリップ従動子は、複数の外科手術用クリップを遠位方向に推進するように構成されており、このクリップ従動子は、その第一の表面から突出する第一のタブ、およびその第二の表面から突出する第二のタブを備え、このクリップ従動子の第一のタブは、この前進プレートが遠位に移動する際にこの前進プレートと係合し、その結果、このクリップ従動子が遠位に移動して、複数の外科手術用クリップを前進させ、そしてこのクリップ従動子の第二のタブは、この前進プレートが近位に移動する際に、このクリップキャリアと係合し、その結果、このクリップ従動子は静止したままである、クリップ従動子；このハウジング内で、このクリップキャリアに隣接して往復可能に配置された駆動チャネルであって、この駆動棒は、この駆動チャネルに選択的に係合して、この駆動チャネルの並進を行い、この駆動チャネルの遠位端は、この駆動チャネルの遠位への前進の際に、これらの顎の表面と係合して、これらの顎の近接を行う、駆動チャネル；ならびにこのハウジング内でこの駆動チャネルに隣接して往復可能に配置された楔プレートであって、この楔プレートは、その遠位端が顎内に配置された位置と、その遠位端が顎から外れた位置との間で移動可能である、楔プレートを備える。

10

20

30

【 0 0 6 0 】

この押し棒は、その遠位端に形成されたプッシャーを備え得る。このプッシャーは、装填された外科手術用クリップと1つの位置で接触するための、狭いプロフィールを有し得る。このプッシャーは、装填された外科手術用クリップの面に対して実質的に直交して配向された面を規定し得る。この押し棒は、この押し棒に支持された第一のばねクリップを備え得、この第一のばねクリップは、この押し棒が前進位置にある場合に、このシャフトアセンブリのハウジングのフィーチャーと選択的に係合して、この押し棒をこの前進位置に選択的に維持するためのものである。この押し棒は、この押し棒に支持された第二のばねクリップをさらに備え得、この第二のばねクリップは、コネクタプレートの第一のフィーチャーと選択的に係合するためのものであり、このコネクタプレートの第一のフィーチャーは、このコネクタプレートの最初の遠位への移動後に、この第二のばねクリップから選択的に脱係合する。

40

【 0 0 6 1 】

このクリップ従動子は、このシャフトアセンブリを通して漸増的に前進し得る。このクリップ従動子はその表面から延びるキャッチを備え得る。使用において、このキャッチは

50

、最後の外科手術用クリップの発射後にこの押し棒と係合し得、そしてこの押し棒が近位方向に移動することを防止し得る。

【0062】

このハンドルアセンブリは、内部に配置されたラチェットアセンブリをさらに備え得る。使用において、このラチェットアセンブリは、この押し棒が近位位置に戻らない場合に、リセットすることを防止し得る。このハンドルアセンブリは、このハウジングアセンブリ内に支持された計数器をさらに備え得、この計数器は、外科手術用クリップが発射される場合に、指標を提供し得る。このハンドルアセンブリは、内部に支持されたインジケータをさらに備え得る。このインジケータは、事象を示す可聴指標および触知可能指標のうちの少なくとも1つを提供し得る。例えば、この事象は、外科手術用クリップが顎に装填されたこと、外科手術用クリップが発射されたこと、およびこの装置がリセットされたことのうちの少なくとも1つであり得る。

10

【0063】

この楔プレートは、この楔プレートに支持された第三のばねクリップをさらに備え得、この第三のばねクリップは、コネクタプレートの第二のフィーチャーと選択的に係合するためのものである。使用において、このコネクタプレートの第二のフィーチャーは、このコネクタプレートの最初の遠位への移動後に、この第三のばねクリップと選択的に脱係合し得る。

【0064】

このシャフトアセンブリは、楔プレートロックを備え得る。使用において、この駆動チャンネルは、その遠位への前進の際にこの楔プレートロックを起動して、この楔プレートの近位への運動を引き起こし得、この楔プレートの遠位端を顎から引き抜き、そしてこの駆動チャンネルがこれらの顎を近接させることを可能にする。

20

【0065】

このシャフトアセンブリは、このハンドルアセンブリに対して、長手方向軸の周りで回転可能であり得る。このシャフトアセンブリは、このハウジング内に支持されたカフを備え得、このカフは、この第三のばねクリップがこのカフを横断して並進する場合に、この第三のばねクリップが外向きに広がることを防止する。

【0066】

楔プレートおよび/または駆動チャンネルは、近位位置に付勢され得る。

30

【発明の効果】

【0067】

本発明により、個々のクリップの発射、装填ユニットに収容されるクリップの消耗、または他の任意の外科手術事象の指標が使用者に提供され、器具の作動が改善される。クリップの首尾よい装填を促進し、そしてクリップのあらゆる損傷または過剰な圧縮を防止し、そして発射前に顎がクリップを圧縮することを防止する目的で、外科手術用クリップアプライアの顎を開くように楔止めし、次いでクリップを顎の間に装填する、外科手術用クリップアプライアもまた提供される。

【図面の簡単な説明】

【0068】

40

【図1】図1は、本開示の1つの実施形態による外科手術用クリップアプライアの正面斜視図である。

【図2】図2は、シャフトアセンブリの回転を図示する、図1のクリップアプライアの背面斜視図である。

【図3】図3は、図1および図2のクリップアプライアのシャフトアセンブリの遠位端の正面斜視図である。

【図4】図4は、図1および図2のクリップアプライアの上平面図である。

【図5】図5は、図1および図2のクリップアプライアの側面立面図である。

【図6】図6は、左側のハウジング半セクションが取り外されて図示された、図1～図5のクリップアプライアのハンドルアセンブリの斜視図である。

50

【図 7】図 7 は、右側のハウジング半セクションが取り外されて図示された、図 1 ~ 図 5 のクリップアプライアのハンドルアセンブリの斜視図である。

【図 8】図 8 は、図 1 ~ 図 5 のクリップアプライアのハンドルアセンブリの、部品を分離した斜視図である。

【図 8 A】図 8 A は、トリガが取り外された、図 6 ~ 図 8 のハンドルアセンブリの斜視図である。

【図 8 B】図 8 B は、図 6 ~ 図 8 のハンドルアセンブリのフィードバック部材の斜視図である。

【図 9】図 9 は、図 1 ~ 図 5 のクリップアプライアのシャフトアセンブリの、部品が分離された斜視図である。

【図 10】図 10 は、組み立てられた状態で示される、図 9 のシャフトアセンブリの右側正面斜視図である。

【図 11】図 11 は、図 10 の示される細部領域の拡大図である。

【図 12】図 12 は、上ハウジングが取り外されて示される、図 9 ~ 図 11 のシャフトアセンブリの右側正面斜視図である。

【図 13】図 13 は、図 12 の示される細部領域の拡大図である。

【図 14】図 14 は、図 12 の示される細部領域の拡大図である。

【図 15】図 15 は、図 12 の示される細部領域の拡大図である。

【図 16】図 16 は、図 9 ~ 図 15 のシャフトアセンブリの押し棒の近位端およびスナップクリップの、部品が分離された斜視図である。

【図 17】図 17 は、上ハウジング内に配置された押し棒の近位端およびスナップクリップを図示する、図 9 ~ 図 15 のシャフトアセンブリの底平面図である。

【図 18】図 18 は、上ハウジングおよび押し棒が取り外されて示される、図 9 ~ 図 17 のシャフトアセンブリの右側正面斜視図である。

【図 19】図 19 は、図 18 の示される細部領域の拡大図である。

【図 20】図 20 は、図 18 の示される細部領域の拡大図である。

【図 21】図 21 は、上ハウジング、押し棒および前進プレートが取り外されて示される、図 9 ~ 図 20 のシャフトアセンブリの右側正面斜視図である。

【図 22】図 22 は、図 21 の示される細部領域の拡大図である。

【図 23】図 23 は、クリップ従動子およびロックアウトプレートの、部品が分離された斜視図である。

【図 23 A】図 23 A は、組み立てられた図 23 のクリップ従動子およびロックアウトプレートの上面斜視図である。

【図 24】図 24 は、図 23 のクリップ従動子の底面斜視図である。

【図 25】図 25 は、上ハウジング、押し棒、前進プレートおよびクリップキャリアが取り外されて示される、図 9 ~ 図 23 のシャフトアセンブリの遠位端の右側正面斜視図である。

【図 26】図 26 は、上ハウジング、押し棒、前進プレート、クリップキャリアおよび前進チャンネルが取り外されて示される、図 25 のシャフトアセンブリの遠位端の右側正面斜視図である。

【図 27】図 27 は、上ハウジング、押し棒、前進プレート、クリップキャリア、駆動チャンネルおよび楔プレートが取り外されて示されている、図 9 ~ 図 26 のシャフトアセンブリの左側正面斜視図である。

【図 28】図 28 は、図 27 の示される細部領域の拡大図である。

【図 29】図 29 は、図 27 の示される細部領域の拡大図である。

【図 30】図 30 は、図 9 ~ 図 29 のシャフトアセンブリの下ハウジングの左側正面斜視図である。

【図 31】図 31 は、図 30 の示される細部領域の拡大図である。

【図 31 A】図 31 A は、図 30 の示される細部領域の拡大図である。

【図 32】図 32 は、クリップアプライアを非起動状態で図示する、図 1 ~ 図 31 A のク

10

20

30

40

50

リップブライアの長手軸方向断面図である。

【図 3 3】図 3 3 は、図 3 2 の示される細部領域の拡大図である。

【図 3 4】図 3 4 は、図 1 ~ 図 3 1 A のリップブライアのシャフトアセンブリの遠位端の長手軸方向断面図である。

【図 3 5】図 3 5 は、図 3 4 の 3 5 - 3 5 を通して見た断面図である。

【図 3 6】図 3 6 は、図 3 4 の示される細部領域の拡大図である。

【図 3 7】図 3 7 は、図 3 6 の 3 7 - 3 7 を通して見た断面図である。

【図 3 8】図 3 8 は、図 3 4 の示される細部領域の拡大図である。

【図 3 9】図 3 9 は、図 3 8 の 3 9 - 3 9 を通して見た断面図である。

【図 4 0】図 4 0 は、図 3 4 の示される細部領域の拡大図である。

10

【図 4 1】図 4 1 は、図 4 0 の 4 1 - 4 1 を通して見た断面図である。

【図 4 2】図 4 2 は、図 3 4 の示される細部領域の拡大図である。

【図 4 3】図 4 3 は、図 4 2 の 4 3 - 4 3 を通して見た断面図である。

【図 4 4】図 4 4 は、最初の起動中のリップブライアを図示する、図 1 ~ 図 4 3 のリップブライアの長手軸方向断面図である。

【図 4 5】図 4 5 は、図 4 4 の示される細部領域の拡大図である。

【図 4 6】図 4 6 は、リップブライアの最初の起動中の、図 3 4 の示される細部領域 3 6 の拡大図である。

【図 4 7】図 4 7 は、リップブライアの最初の起動中の、図 3 4 の示される細部領域 4 0 の拡大図である。

20

【図 4 7 A】図 4 7 A は、リップブライアの最初の起動中の、押し棒の移動を図示する押し棒の上平面図である。

【図 4 7 B】図 4 7 B は、リップブライアの最初の起動中の、楔プレートの移動を図示するシャフトアセンブリの長手軸方向断面図である。

【図 4 7 C】図 4 7 C は、リップブライアの最初の起動中の、楔プレートの移動を図示するシャフトアセンブリの長手軸方向断面図である。

【図 4 8】図 4 8 は、リップブライアの最初の起動中のシャフトアセンブリの、図 4 0 の 4 1 - 4 1 を通して見た断面の拡大図である。

【図 4 9】図 4 9 は、リップブライアの最初の起動中のシャフトアセンブリの、図 4 0 の 4 1 - 4 1 を通して見た断面の拡大図である。

30

【図 5 0】図 5 0 は、リップブライアの最初の起動中の、図 3 4 の示される細部領域 4 2 の拡大図である。

【図 5 1】図 5 1 は、リップブライアの最初の起動中の、シャフトアセンブリの遠位端の底面左側斜視図である。

【図 5 2】図 5 2 は、リップブライアの最初の起動中の楔プレートのさらなる移動、および楔プレートのスナップクリップからのコネクタプレートのステムの脱係合を図示する、シャフトアセンブリの長手軸方向断面図である。

【図 5 3】図 5 3 は、リップブライアの最初の起動中の楔プレートのさらなる移動、および楔プレートのスナップクリップからのコネクタプレートのステムの脱係合を図示する、シャフトアセンブリの長手軸方向断面図である。

40

【図 5 4】図 5 4 は、リップブライアの最初の起動中の楔プレートのさらなる移動、および楔プレートのスナップクリップからのコネクタプレートのステムの脱係合を図示する、シャフトアセンブリの長手軸方向断面図である。

【図 5 5】図 5 5 は、さらなる起動中のリップブライアを図示する、図 1 ~ 図 5 4 のリップブライアの長手軸方向断面図である。

【図 5 6】図 5 6 は、図 5 5 の示される細部領域の拡大図である。

【図 5 6 A】図 5 6 A は、リップブライアのさらなる起動中の押し棒の移動を図示する、上ハウジングが取り外されたシャフトアセンブリの右側斜視図である。

【図 5 6 B】図 5 6 B は、リップブライアのさらなる起動中の前進プレートの移動を図示する、前進プレートの底平面図である。

50

【図 5 6 C】図 5 6 C は、クリップアプライアのさらなる起動中の前進プレートの移動を図示する、前進プレートの底平面図である。

【図 5 7】図 5 7 は、クリップアプライアのさらなる起動中の、図 3 4 の示される細部領域 3 6 の拡大図である。

【図 5 8】図 5 8 は、クリップアプライアのさらなる起動中の、図 3 4 の示される細部領域 4 0 の拡大図である。

【図 5 9】図 5 9 は、クリップアプライアのさらなる起動中の押し棒の移動、および上ハウジングのボスへの、この押し棒に支持されたクリップの接続を図示する、シャフトアセンブリの長手軸方向断面図である。

【図 6 0】図 6 0 は、クリップアプライアのさらなる起動中の押し棒の移動、および上ハウジングのボスへの、この押し棒に支持されたクリップの接続を図示する、シャフトアセンブリの長手軸方向断面図である。

【図 6 1】図 6 1 は、クリップアプライアのさらなる起動中の、図 3 4 の示される細部領域 4 0 の拡大図である。

【図 6 2】図 6 2 は、クリップアプライアのさらなる起動中の、図 3 4 の示される細部領域 4 2 の拡大図である。

【図 6 3】図 6 3 は、クリップアプライアのさらなる起動中の駆動棒の移動を図示する、シャフトアセンブリの長手軸方向断面図である。

【図 6 4】図 6 4 は、クリップアプライアのさらなる起動中のシャフトアセンブリの、図 4 0 の 4 1 - 4 1 を通して見た断面の拡大図である。

【図 6 5】図 6 5 は、クリップアプライアのさらなる起動中のシャフトアセンブリの、図 4 0 の 4 1 - 4 1 を通して見た断面の拡大図である。

【図 6 6】図 6 6 は、クリップアプライアのさらなる起動中の、シャフトアセンブリの遠位端の上面左側斜視図である。

【図 6 7】図 6 7 は、クリップアプライアのさらなる起動中のコネクタプレートの移動を図示する、シャフトアセンブリの長手軸方向断面図である。

【図 6 7 A】図 6 7 A は、本開示の代替の実施形態によるクリップアプライアのさらなる起動中のコネクタプレートの移動を図示する、シャフトアセンブリの長手軸方向断面図である。

【図 6 8】図 6 8 は、クリップアプライアのさらなる起動中のコネクタプレートの移動を図示する、シャフトアセンブリの長手軸方向断面図である。

【図 6 8 A】図 6 8 A は、本開示の代替の実施形態によるクリップアプライアのさらなる起動中のコネクタプレートの移動を図示する、シャフトアセンブリの長手軸方向断面図である。

【図 6 9】図 6 9 は、クリップアプライアのさらなる起動中のコネクタプレートの移動を図示する、シャフトアセンブリの長手軸方向断面図である。

【図 6 9 A】図 6 9 A は、本開示の代替の実施形態によるクリップアプライアのさらなる起動中のコネクタプレートの移動を図示する、シャフトアセンブリの長手軸方向断面図である。

【図 7 0】図 7 0 は、最後の起動中のクリップアプライアを図示する、図 1 ~ 図 6 9 のクリップアプライアの長手軸方向断面図である。

【図 7 1】図 7 1 は、図 7 0 の示される細部領域の拡大図である。

【図 7 2】図 7 2 は、クリップアプライアの最後の起動中の、図 3 4 の示される細部領域 4 2 の拡大図である。

【図 7 3】図 7 3 は、クリップアプライアの最後の起動中の顎の起動を図示する、シャフトアセンブリの遠位端の正面斜視図である。

【図 7 4】図 7 4 は、クリップアプライアの最後の起動中の顎の起動を図示する、シャフトアセンブリの遠位端の正面斜視図である。

【図 7 5】図 7 5 は、脈管に適用された外科手術用クリップを図示する斜視図である。

【図 7 6】図 7 6 は、クリップアプライアのトリガの解放中の、図 7 0 の示される細部領

10

20

30

40

50

域 7 1 の拡大図である。

【図 7 6 A】図 7 6 A は、完全に起動した後のトリガの解放中の、ハンドルアセンブリの側面立面図である。

【図 7 7】図 7 7 は、トリガの解放中のコネクタプレートの移動を図示する、シャフトアセンブリの長手軸方向断面図である。

【図 7 8】図 7 8 は、トリガの解放中の押し棒の移動、および上ハウジングのボスからこの押し棒に支持されたクリップの接続が外れることを図示する、シャフトアセンブリの長手軸方向断面図である。

【図 7 9】図 7 9 は、トリガの解放中の押し棒の移動を図示する、上ハウジングが取り外されたシャフトアセンブリの右側斜視図である。

【図 8 0】図 8 0 は、トリガの解放中の、図 3 4 の示される細部領域 4 0 の拡大図である。

【図 8 1】図 8 1 は、トリガの解放中の、押し棒のスナップクリップへのコネクタプレートのステムの再接続を図示する、シャフトアセンブリの長手軸方向断面図である。

【図 8 2】図 8 2 は、トリガの解放中の楔プレートの移動、および楔プレートのスナップクリップへのコネクタプレートのステムの再係合を図示する、シャフトアセンブリの長手軸方向断面図である。

【図 8 3】図 8 3 は、トリガの解放中の楔プレートの移動、および楔プレートのスナップクリップへのコネクタプレートのステムの再係合を図示する、シャフトアセンブリの長手軸方向断面図である。

【図 8 4】図 8 4 は、クリップアプライアがロックされた状態にある場合の、シャフトアセンブリの遠位端の正面斜視図である。

【図 8 5】図 8 5 は、クリップアプライアがロックされた状態にある場合の、図 3 4 の示される細部領域 4 2 の拡大図である。

【図 8 6】図 8 6 は、クリップアプライアがロックされた状態にある場合の、図 7 0 の示される細部領域 7 1 の拡大図である。

【発明を実施するための形態】

【0069】

本発明のクリップアプライアは、以下の図面と組み合わせて考慮される場合に、以下の詳細な説明からよりよく理解されると、より完全に評価される。

【0070】

(実施形態の詳細な説明)

本開示による外科手術用クリップアプライアの実施形態が、ここで図面を参照しながら詳細に記載される。図面において、同じ参照番号は類似かまたは同一の要素を表す。図面に示され、そして以下の説明の全体にわたって記載される場合、伝統的であるように、外科手術用器具での相対位置に言及する場合、用語「近位」とは、その装置の使用者に近い方の端部をいい、そして用語「遠位」とは、その装置の使用者から離れた端部をいう。

【0071】

ここで図 1 ~ 図 5 を参照すると、本開示の実施形態による外科手術用クリップアプライアが、一般に 100 として示されている。クリップアプライア 100 は、ハンドルアセンブリ 102、およびハンドルアセンブリ 102 から遠位に延びるシャフトアセンブリ 104 を備える内視鏡部分を備える。

【0072】

シャフトアセンブリ 104 は、約 10 mm の外径を有する。シャフトアセンブリ 104 は、意図される用途（例えば、肥満学的外科手術）に依存して、より長いまたはより短い種々の長さを有し得る。

【0073】

図 1 ~ 図 5 に見られるように、外科手術用クリップアプライア 100 は、1 対の顎 106 を備え、これらの顎は、シャフトアセンブリ 104 の遠位端に設置され、そしてハンドルアセンブリ 102 のトリガ 108 により起動可能である。顎 106 は、適切な生体適合

10

20

30

40

50

性材料（例えば、ステンレス鋼またはチタン）から形成され、そして内部に外科手術用クリップ「C」を受容するためのチャンネル106aを、顎の間に規定する。顎106が互いに対して開いた状態または近接していない状態にある場合に、顎106の幅は、シャフトアセンブリ104の外径より大きい。

【0074】

顎106は、シャフトアセンブリ104に対して長手軸方向に静止するように、シャフトアセンブリ104の遠位端に設置される。ノブ110が、ハンドルアセンブリ102の遠位端に回転可能に設置され得、そしてシャフトアセンブリ104に固定され得、シャフトアセンブリ104および顎106を長手方向軸の周りでの360°の回転を伝達および/または提供する（図2を参照のこと）。

10

【0075】

ここで図1～図8を参照すると、外科手術用クリップアプライア100のハンドルアセンブリ102が示されている。ハンドルアセンブリ102は、ハウジング103を備え、このハウジングは、第一または右側の半セクション103a、および第二または左側の半セクション103bを有する。ハンドルアセンブリ102は、右側半セクション103aと左側半セクション103bとの間に旋回可能に支持された、トリガ108を備える。ハンドルアセンブリ102は、ハウジング103に形成された窓103cを規定し、この窓は、以下でより詳細に議論されるように、計数機構を支持および表示するためのものである。ハンドルアセンブリ102のハウジング103は、適切なプラスチック材料から形成され得る。

20

【0076】

ハウジング103は、右側半セクション103aと左側半セクション103bとの間に、駆動アセンブリ120を支持する。駆動アセンブリ120は、ウィッシュボーンリンク122を備え、このウィッシュボーンリンクは、トリガ108に旋回可能に接続された第一の端部、およびクランクプレート124に旋回可能に接続された第二の端部を有する。図6～図9に見られるように、駆動アセンブリ120は、クランクプレート124に回転可能に接続された駆動コネクタ134、駆動コネクタ134に相互接続されたプランジャー135、および駆動コネクタ134に支持されたばね136を備える。プランジャー135は、内部に駆動棒140の近位端を受容するように構成および適合された、長手軸方向スロット135aを規定する。

30

【0077】

駆動棒140は、一体ピン135bを介してプランジャー135に接続される（図9を参照のこと）。キャップ144が提供され、このキャップを通してプランジャー135が延びる。シール（図示せず）が提供されて、プランジャー135と外側管150との間に気密シールを作製する。

【0078】

図6～図8に見られるように、ハンドルアセンブリ102は、ラック124aをさらに備える。ラック124aは、ラック124aがクランクプレート124と一緒に移動可能であるように、クランクプレート124の内部/表面に形成される。ラック124aは、複数の歯を備え、これらの歯は、クランクプレート124に規定された遠位凹部124bと近位凹部124cとの間に介在する。凹部124bおよび124cは、クランクプレート124が近位への移動と遠位への移動との間を変更する場合に、つめ224が反転してラック124aの歯を越えて戻ることを可能にするために提供される。

40

【0079】

ハンドルアセンブリ102は、つめ224がクランクプレート124のラック124aと実質的に作動可能な係合を行う位置で、つめピン226によってハウジング130に回転可能に接続されたつめ224をさらに備える。つめ224は、つめ歯224aを備え、このつめ歯は、クランクプレート124のラック124aの歯と選択的に係合可能である。つめ歯224aは、ラック歯と係合して、ラック124a、および次にクランクプレート124の、ハンドルアセンブリ102内の長手軸方向の移動を制限する。つめばね2

50

28は、つめ224をクランクプレート124のラック124aと作動可能に係合させるように付勢するために、提供される。

【0080】

図6～図8に見られるように、クランクプレート124は、ピン123を介してウィッシュボーンリンク122に回転可能に接続される。クランクプレート124は、つめ224と選択的に係合するための、一連のラチェット歯124aを規定する。

【0081】

図8、図8Aおよび図8Bに見られるように、ハンドルアセンブリは、可聴/触覚フィードバック部材126をさらに備え、この可聴/触覚フィードバック部材は、トリガ108が起動される際に、トリガ108と一緒に共通の軸の周りで回転するように、トリガ108と作動可能に関連する。フィードバック部材126は、複数のラチェットまたは段126bを規定するレース(race)126aを規定する。屈曲可能なアーム127が提供され、この屈曲可能なアームは、フィードバック部材126のレース126aに作動可能に接続または配置されて段126bに接触する第一の端部、およびハウジング103に接続される第二の端部を備える。作動において、トリガ108が起動されると、アーム127は、フィードバック部材126内に形成されたレース126aを通り、そして/またはレース126aに沿って進む。以下でより詳細に議論されるように、アーム127がフィードバック部材126の段126bを越えて移動する際に、アーム127は段126bにスナップし、そして可聴音/クリック音および/または触知可能な振動を生じる。

【0082】

可聴/触覚フィードバック部材126は、クリップが外科手術用クリップアプライア100の顎内に完全に装填した後、装填されたクリップが外科手術用クリップアプライア100の顎により形成された後、および外科手術用クリップアプライア100がホーム位置にリセットされて別のクリップを発射/形成する準備ができた後に、可聴/触知可能指標を生じるために十分な段126bを備える。

【0083】

図6、図7、図8、および図8Aに見られるように、外科手術用クリップアプライア100のハンドルアセンブリ102は、計数機構132をさらに備え、この計数機構は、ハウジング103内に支持されており、そしてハウジング103に規定された窓103cを介して見える。計数機構132は、ディスプレイ132a、プロセッサ132b、およびバッテリーなどの形態のエネルギー源(図示せず)を備える。

【0084】

ディスプレイ132aは、事象の指標を提供する、当該分野において公知の任意のデバイスであり得る。この事象は、クリップアプライア100の手順または作動に関連し得る。ディスプレイ132aは、液晶ディスプレイ(LCD)である。

【0085】

ディスプレイ132aは、クリップアプライア100の1つ以上の作動パラメータを外科医に表示する。ディスプレイ132aにより表示される作動パラメータとしては、残っているクリップの量または数、使用されたクリップの数、位置パラメータ、外科手術使用時間、あるいは他の任意の手順のパラメータが挙げられる。

【0086】

マイラーまたは他のポリマー絶縁材料が、バッテリーまたはエネルギー源とプロセッサ132bの接点との間に配置され、この材料は、このバッテリーまたはエネルギー源が、保管中に消耗することを防止する。タブが、このタブの容易な除去を可能にする目的で、外科手術用クリップアプライア100のハウジング103から延びる。一旦、このタブが除去されると、バッテリーまたは他のエネルギー源がプロセッサ132bの接点と電気的に接触し、次に、ディスプレイ132aにエネルギーを供給する。

【0087】

図6、図7、図8および図8Aに見られるように、外科手術用クリップアプライア100のハンドルアセンブリ102は、計数器起動機構をさらに備え、この計数器起動機構は

10

20

30

40

50

、第一のアーム 130 a を有する計数器起動レバー 130 を備え、この第一のアームは、計数器機構 132 のプロセッサ 132 b と作動可能に選択的に係合するように構成および適合される。計数器起動レバー 130 は、第二のアーム 130 b をさらに備え、この第二のアームは、ハウジング 103 内にスライド可能に支持されたアクチュエータプレート 128 に形成されたスロット 128 a と作動可能にスライド可能に係合するように構成および適合される。

【0088】

作動において、以下により詳細に記載されるように、トリガ 108 が握られると、トリガ 108 は、ウィッシュボーンリンク 122 を遠位に前進させ、クランクプレート 124 を遠位に前進させる。クランクプレート 124 のアーム 124 d が所定の距離だけ前進すると、アーム 124 d は、アクチュエータプレート 128 のフィンガー 128 b と係合または接触する。クランクプレート 124 がさらに遠位に前進すると、クランクプレート 124 は、アクチュエータプレート 128 に遠位方向に力を加えるかまたは引き、これによって、計数器駆動レバー 130 を起動させて、計数器機構 132 を起動させる。

10

【0089】

具体的には、アクチュエータプレート 128 が十分な距離だけ遠位に移動すると、計数器起動レバー 130 の第二のアーム 130 b がそのスロット 128 a 内でカム作用し、そして計数器起動レバー 130 を回転させ、その結果、計数器起動レバー 130 の第一のアーム 130 a が計数器機構 132 と係合し、これによって、そのディスプレイに変化を起こす。アクチュエータプレート 128 が十分な距離だけ近位に移動すると、計数器起動レバー 130 の第二のアーム 130 b がホーム位置に戻り、その結果、計数器起動レバー 130 の第一のアーム 130 a が、計数器機構 132 から脱係合する。

20

【0090】

図 9 ~ 図 31 A を参照すると、外科手術用クリップアプライア 100 のシャフトアセンブリ 104 が示され、そして本明細書中以下に記載される。シャフトアセンブリ 104 およびその構成要素は、適切な生体適合性材料（例えば、ステンレス鋼、チタン、プラスチックなど）から形成され得る。シャフトアセンブリ 104 は、外側管 150 を備え、この外側管は、ハウジング 103 内に支持された近位端 150 a、遠位端 150 b、およびこの外側管を通して延びる管腔 150 c を有する。外側管 150 は、その外側表面から突出するフランジによって、ハウジング 103 内に固定される。シャフトアセンブリ 104 は、上ハウジング 152 a および下ハウジング 152 b をさらに備え、各々が、外側管 150 の管腔 150 c 内に配置される。後方上ハウジング 154 は、外側管 150 の内部でありかつ上ハウジング 152 a の近位に配置される。

30

【0091】

図 9、図 12 および図 13 に見られるように、シャフトアセンブリ 104 は、上ハウジング 152 a と後方上ハウジング 154 との内部にスライド可能に支持された押し棒 156 をさらに備える。押し棒 156 は、狭いプロフィールのプッシャー 156 c を規定する遠位端 156 a を備え、このプッシャーは、クリップのスタック「C」のうちの最も遠位にあるクリップ「C1」と選択的に係合/移動（すなわち、遠位に前進）するように、そして最も遠位のクリップ「C1」の最初の形成中にこの最も遠位のクリップ「C1」と接触したままになるように、構成および適合されている。押し棒 156 は、近位端 156 b をさらに備える。押し棒 156 は、キャッチ 156 e を有する遠位窓 156 d、遠位窓 156 d の近位に位置してその各側縁部に形成された 1 対の凹部 156 f、側部凹部 156 f の近位に位置する細長スロット 156 g、およびスロット 156 g の近位に位置する最も近位の窓 156 h を規定する。

40

【0092】

図 9 および図 14 に見られるように、押し棒 156 は、その上表面に沿って、押し棒 156 の側部凹部 156 f の遠位の位置で、第一のスナップクリップ 157 a を支持する。第一のスナップクリップ 157 a は、その枝が押し棒 156 の上表面からある量で突出するか、または間隔を空けるような様式で、構成される。

50

【 0 0 9 3 】

図 9 および図 1 5 に見られるように、押し棒 1 5 6 は、その下表面に沿って、押し棒 1 5 6 の最も近位の窓 1 5 6 h の近位の位置で、第二のスナップクリップ 1 5 7 b を支持する。第二のスナップクリップ 1 5 7 b は、その枝が、押し棒 1 5 6 の最も近位の窓 1 5 6 h の上に重なるために十分な量で突出するような様式で、配向される。第二のスナップクリップ 1 5 7 b の枝は、押し棒 1 5 6 の最も近位の窓 1 5 6 h の幅より小さい量だけ、互いから間隔を空けている。

【 0 0 9 4 】

図 9 および図 1 6 ~ 図 2 0 に見られるように、シャフトアセンブリ 1 0 4 は、押し棒 1 5 6 の下に往復可能に支持された前進プレート 1 6 2 をさらに備える。図 1 6 および図 1 7 に見られるように、第四のスナップクリップ 1 5 7 d が、前進プレート 1 6 2 の近位端に支持される。スナップクリップ 1 5 7 d は、1 対の枝を備え、これらの枝は、上ハウジング 1 5 2 a に形成された近位保持溝 1 5 2 m および遠位保持溝 1 5 2 n 内に取り外し可能に接続される。この様式で、スナップクリップ 1 5 7 d は、近位保持溝 1 5 2 m および遠位保持溝 1 5 2 n と取り外し可能に係合して、前進プレート 1 6 2 を近位位置または遠位位置に維持する。前進プレート 1 6 2 の遠位への前進の際に、スナップクリップ 1 5 7 d の枝は、内向きにカム作用し、そして前進プレート 1 6 2 がより遠位に移動し続けることを可能にする。

10

【 0 0 9 5 】

図 1 8 ~ 図 2 0 に見られるように、前進プレート 1 6 2 は、内部に形成されてその長さに沿って延びる、一連の窓 1 6 2 a を備える。図 1 9 に見られるように、各窓 1 6 2 a は、前進プレート 1 6 2 の表面の下に延びる近位縁部を規定し、これによって、リップまたはレッジ 1 6 2 c を規定する。前進プレート 1 6 2 は、その側縁部から上ハウジング 1 5 2 a に向かう方向に延びる 1 対の側部フィン 1 6 2 b をさらに備える。図 1 5 に見られるように、1 対の側部フィン 1 6 2 b は、押し棒 1 5 6 の側部凹部 1 5 6 f 内にスライド可能に配置される。

20

【 0 0 9 6 】

図 9 および図 2 1 ~ 図 2 2 に見られるように、シャフトアセンブリ 1 0 4 は、上ハウジング 1 5 2 a の内部でありかつ前進プレート 1 6 2 の下に配置された、クリップキャリア 1 6 4 をさらに備える。クリップキャリア 1 6 4 は、ほぼ箱様の構造であり、そして上壁、1 対の側壁および下壁を有し、このクリップキャリアを通るチャンネルを規定する。クリップキャリア 1 6 4 は、その下壁に形成されてその長さに沿って長手軸方向に延びる、間隔を空けた複数の窓 1 6 4 a を備える（図 9 を参照のこと）。クリップキャリア 1 6 4 は、その上壁に形成され、そしてその長さに沿って長手軸方向に延びる、細長窓を備える。

30

【 0 0 9 7 】

図 9 および図 2 1 に見られるように、外科手術用クリップのスタック「C」は、クリップキャリア 1 6 4 のチャンネル内に、このチャンネル内かつ/またはこのチャンネルに沿ってスライドするような様式で、装填および/または保持される。クリップキャリア 1 6 4 のチャンネルは、複数の外科手術用クリップ「C」を、内部で進行方向に並んだ様式でスライド可能に保持するような構成および寸法にされる。

40

【 0 0 9 8 】

図 1 9 に見られるように、クリップキャリア 1 6 4 の遠位端は、間隔を空けた 1 対の弾性中子 1 6 4 b を備える。中子 1 6 4 b は、クリップキャリア 1 6 4 内に保持された外科手術用クリップのスタック「C」のうちの、最も遠位の外科手術用クリップ「C1」のバックスパンと取り外し可能に係合するように構成および適合される。

【 0 0 9 9 】

図 9 および図 2 1 ~ 図 2 4 に見られるように、クリップアプライア 1 0 0 のシャフトアセンブリ 1 0 4 は、クリップキャリア 1 6 4 のチャンネル内にスライド可能に配置されたクリップ従動子 1 6 6 をさらに備える。以下により詳細に記載されるように、クリップ従動子 1 6 6 は、外科手術用クリップのスタック「C」の後ろに位置し、そしてクリップアプ

50

ライア 100 の起動中に、クリップのスタック「C」を前方に推進するために提供される。以下により詳細に記載されるように、クリップ従動子 166 は、前進プレート 162 の前方および後方への往復運動によって起動される。

【0100】

図 23、図 23A および図 24 に見られるように、クリップ従動子 166 は、本体部分 166a、本体部分 166a から実質的に上向きかつ後方に延びる遠位タブ 166b、および本体部分 166a から実質的に下向きかつ後方に延びる近位タブ 166c を備える。

【0101】

クリップ従動子 166 の遠位タブ 166b は、前進プレート 162 の窓 162a のレッジ 162c に選択的に係合するような構成および寸法にされる。使用において、クリップ従動子 166 の遠位タブ 166b の、前進プレート 162 の窓 162a のレッジ 162c への係合は、前進プレート 162 が遠位方向に進進または移動する際に、前進プレート 162 にクリップ従動子 166 を遠位に漸増的に前進させるかまたは動かす。

10

【0102】

近位タブ 166c は、クリップキャリア 164 に形成された窓 164a と選択的に係合するような構成および寸法にされる。使用において、クリップ従動子 166 の近位タブ 166c の、クリップキャリア 164 に形成された窓 164a 内への係合は、クリップ従動子 166 が近位方向に動くことまたは移動することを防止する。

【0103】

クリップ従動子 166 は、ロックアウトプレート 165 を備え、このロックアウトプレートは、このクリップ従動子に支持されるか、あるいはこのクリップ従動子と一体的に形成される。ロックアウトプレート 165 は、そこから延びる窓 165d を規定する弾性テイル 165a を備え、この弾性テイルは、クリップ従動子 166 の本体部分 166a から上向きかつ後方に向く。

20

【0104】

図 9、図 25 および図 38 に見られるように、シャフトアセンブリ 104 は、駆動チャネル 168 をさらに備え、この駆動チャネルは、チャネルアセンブリ 104 内に、クリップキャリア 164 の下の位置で往復可能に支持される。駆動チャネル 168 は、実質的に U 字型のチャネルであり、そのバックスパン 168c から、クリップキャリア 164 から離れる方向に、下ハウジング 152b に向かう方向に延びる間隔を空けた 1 対の側壁 168b を備える。駆動チャネル 168 は、タブ 168d をさらに備え、このタブは、バックスパン 168c から、スロット 168a の近位の位置で突出し、そして側壁 168b の方向に延びる。図 41 に見られるように、駆動チャネル 168 は、側壁 168b のうちの 1 つに形成されたスロットまたは窓 168e を規定し、このスロットまたは窓は、楔プレート解除機構 194 の歯 194c を選択的に受容するためのものである。

30

【0105】

図 9 および図 25 に見られるように、クリップアプライア 100 のシャフトアセンブリ 104 は、駆動チャネル 168 に固定された駆動チャネルストラップ 167 を備える。ストラップ 167 は、駆動チャネル 168 の側壁 168b を横切って延びるように、この側壁に固定される。ストラップ 167 は、細長スロット 168a の遠位の位置で、駆動チャネル 168 に固定される。ストラップ 167 は、楔プレート 172 が駆動チャネル 168 のバックスパン 168c と顎 106 との間に延びるように、駆動チャネル 168 に固定される。

40

【0106】

図 9、図 26 および図 27 に見られるように、クリップアプライア 100 は、1 対の顎 106 を備え、これらの顎は、シャフトアセンブリ 104 の遠位端に設置され、そしてトリガ 108 により起動可能である。顎 106 は、適切な生体適合性材料（例えば、ステンレス鋼またはチタン）から形成される。

【0107】

顎 106 は、下ハウジング 152b に形成されたボスを介して、駆動チャネル 168 の

50

遠位端に隣接して設置される。これらのボスは、顎 106 に形成された受容スロットに係合し、その結果、顎 106 は、駆動チャンネル 168 に対して静止して保持される。図 25 に見られるように、顎 106 は、外科手術用クリップ「C」を内部に受容するためのチャンネル 106a を、間に規定する。

【0108】

図 9、図 25 および図 26 に見られるように、クリップアブライア 100 のシャフトアセンブリ 104 は、楔プレート 172 をさらに備え、この楔プレートは、駆動チャンネル 168 と顎 106 との間に介在する遠位端、およびシャフトアセンブリ 104 を通って延びる近位端を有する。楔プレート 172 は、顎 106 の間に選択的に作動可能に介在するために、実質的にテーパ状の遠位端 172a を備える。図 26 に見られるように、楔プレート 172 は、その下表面から突出するフィンまたはタブ 172b を規定する。図 22 に見られるように、楔プレート 172 は、そこに形成された最も近位のスロット 172c を規定し、このスロットは、内部にコネクタプレート 174 の第二のステム 174c をスライド可能に受容するためのものである。

10

【0109】

図 22 に見られるように、第三のスナップクリップ 157c は、楔プレート 172 の近位端で支持される。第三のスナップクリップ 157c は、その枝が楔プレート 172 に形成された最も近位の窓 172c の上に重なるために十分な量で突出するような様式で、配向される。第三のスナップクリップ 175c の枝は、楔プレート 172 の最も近位の窓 172c の幅より小さい量だけ、互いから間隔を明けている。

20

【0110】

図 9、図 18、図 20 および図 36 に見られるように、クリップアブライア 100 のシャフトアセンブリ 104 は、コネクタプレート 174 をさらに備え、このコネクタプレートは、押し棒 156 と楔プレート 172 との間にスライド可能に介在し、そして押し棒 156 と楔プレート 172 との各々に取り外し可能に接続可能である。コネクタプレート 174 は、テーパ状の遠位端 174a、その上表面から延びる第一のステム 174b、およびその底表面から延びる第二のステム 174c を備える。各ステム 174b、174c は、実質的に涙滴の形状のプロフィールを有し、各ステム 174b、174c の遠位端は、その近位端より大きい。

【0111】

作動において、コネクタプレート 174 の第一のステム 174b は、押し棒 156 に固定された第二のスナップクリップ 157b と取り外し可能に接続するための構成および寸法にされており、そしてコネクタプレート 174 の第二のステム 174c は、楔プレート 172 に固定された第三のスナップクリップ 157c と取り外し可能に接続されるための構成および寸法にされる。

30

【0112】

図 22、図 36 および図 37 に見られるように、コネクタプレート 174 の第二のステム 174c は、駆動棒 140 に規定された窓 140b 内に延びる。この様式で、駆動棒 140 もまた往復する際に、コネクタプレート 174 がそれと共に往復する。

【0113】

図 31A に見られるように、ガード 198 が、下ハウジング 152b 内に、第三のスナップクリップ 157c の最初の遠位への前進中に第三のスナップクリップ 157c の枝間の相対距離が維持されるような位置で支持される。この様式で、コネクタプレート 174 の第二のステム 174b は、第三のスナップクリップ 157c がガード 198 を越えるまで、第三のスナップクリップ 157c から尚早に脱係合し得ない。

40

【0114】

図 9、図 27、図 29 および図 41 に見られるように、クリップアブライア 100 のシャフトアセンブリ 104 は、下ハウジング 152b のチャンネル内にスライド可能に支持されたスライダジョイント 180 をさらに備える。スライダジョイント 180 は、本体部分 182、およびこの本体部分から延びるロッド 184 を備える。下ハウジング 152b の

50

チャンネル内で適切に配置されると、スライダジョイント180のロッド184は、実質的に遠位方向に延びる。スライダジョイント180のロッド184は、下ハウジング152bに形成され、そして下ハウジング152bのチャンネルから延びるスタブ(stub)152dをスライド可能に通過する(図29を参照のこと)。シャフトアセンブリ104は、圧縮ばねの形態の付勢部材186をさらに備え、この付勢部材は、ロッド184に支持され、そして下ハウジング152bのスタブ152dと、スライダジョイント180の本体部分182との間に介在する。

【0115】

スライダジョイント180の本体部分182は、その近位端の近くに形成されたボス182aを備え、このボスは、駆動棒140の細長スロット140aとスライド可能に係合するために構成および適合される(図29を参照のこと)。スライダジョイント180の本体部分182は、その遠位端の近くに形成されたポケット182bをさらに備え、このポケットは、内部に駆動チャンネル168のタブ168dを受容するために構成および適合される(図38および図39を参照のこと)。

10

【0116】

図9、図27および図28に見られるように、クリップアプライア100のシャフトアセンブリ104は、下ハウジング152bのチャンネルおよび駆動チャンネル168内にスライド可能に支持された楔プレートロック190をさらに備える。楔プレートロック190は、本体部分190a、本体部分190aから遠位に延びる棒190b、本体部分190aから近位に延びるテイル190c、本体部分190aの上表面に形成されたポケット190d、およびテイル190cから延びるステムまたは歯190eを備える。シャフトアセンブリ104は、圧縮ばねの形態の付勢部材192をさらに備え、この付勢部材は、棒190bに支持され、そして下ハウジング152bと楔プレートロック190の本体部分190aとの間に介在する。

20

【0117】

クリップアプライア100のシャフトアセンブリ104は、下ハウジング152bのチャンネル内に回転可能に支持された楔プレート解除機構194をさらに備える。楔プレート解除機構194は、楔プレートロック190のテイル190cから延びる歯190eと係合するために係合されたステム194a、ステム194aから外向きに楔プレートロック190のテイル190cに向かう方向へと延びるハンマー194b、および楔プレートロック190のテイル190cから離れる方向へとステム194aから延びる歯194cを備える。

30

【0118】

外科手術用クリップを標的組織(例えば、脈管)に形成またはクリンプするための外科手術用クリップアプライア100の作動を、ここで記載する。図32~図43を参照すると、その作動または使用の前の外科手術用クリップアプライア100が示されている。図32および図33に見られるように、クリップアプライア100の使用または発射の前に、トリガ108は一般に、非圧縮状態または非起動状態にある。従って、駆動アセンブリ120のクランクプレート124は、引き込まれた位置または最も近位の位置にあり、従って、プランジャー135および駆動棒140もまた、引き込まれた位置にある。クランクプレート124が引き込まれた位置にある場合、つめ224は、クランクプレート124に規定された遠位凹部124b内に配置される。

40

【0119】

駆動アセンブリ120および駆動棒140が引き込まれた位置にある場合、図35~図37に見られるように、コネクタプレート174は、引き込まれた位置または最も近位の位置に位置する。コネクタプレート174が引き込まれた位置または最も近位の位置にある状態で、押し棒156もまた、引き込まれた位置または最も近位の位置にあり、そしてコネクタプレート174の第一の涙滴型ステム174bは、押し棒156の最も近位の窓156hの近位端に配置され、そして第二のスナップクリップ157bの枝とスナップばめ係合して維持される。また、コネクタプレート174が引き込まれた位置または最も近

50

位の位置にある状態で、楔プレート 172 もまた、引き込まれた位置または最も近位の位置にあり、そしてコネクタプレート 174 の第二の涙滴型ステム 174 c は、楔プレート 172 の最も近位の窓 172 c の近位端に配置され、そして第三のスナップクリップ 157 c の枝とスナップばめ係合して維持される。

【0120】

図 36 および図 37 に見られるように、駆動アセンブリ 120 および駆動棒 140 が引き込まれた位置にある場合、スライダジョイント 182 のタブ 182 a は、駆動棒 140 の細長スロット 140 a の最も遠位の位置に位置する。

【0121】

図 38 および図 39 に見られるように、駆動アセンブリ 120 および駆動棒 140 が引き込まれた位置にある場合、クリップ従動子 166 は、クリップキャリア 164 のチャンネルの最も近位の端部に位置し、クリップ従動子 166 の遠位タブ 166 b は、前進プレート 162 の最も近位の窓 162 a 内に作動可能に配置され、そして近位タブ 166 c は、クリップキャリア 164 の最も近位の窓 164 a 内に作動可能に配置される。

10

【0122】

図 38 および図 39 の参照を続けて、駆動アセンブリ 120 および駆動棒 140 が引き込まれた位置にある場合、スライダジョイント 180 は、最も近位の位置に位置し、そして駆動チャンネル 168 のタブ 168 d は、スライダジョイント 180 のポケット 182 b 内に配置されるので、駆動チャンネル 168 もまた、最も近位の位置に位置する。図 38 および図 39 に見られるように、スライダジョイント 180 は、下ハウジング 152 b から突出する物理的ストップ 152 e (図 30 を参照のこと) に当接する。

20

【0123】

図 40 および図 41 に見られるように、駆動アセンブリ 120 および駆動棒 140 が引き込まれた位置にある場合、楔プレートロック 190 は、最も近位の位置に位置し、その結果、そのテイル 190 c から延びる歯 190 e は、下ハウジング 152 b に形成された傾斜レッジ 152 f の近位に配置される (図 30 および図 31 を参照のこと)。図 41 に見られるように、楔プレートロック 190 は、下ハウジング 152 b から突出する物理的ストップ 152 g に当接する。図 41 にまた見られるように、楔プレート解除機構 194 は、その歯 194 c が駆動チャンネル 168 の側壁 168 b に形成された窓 168 e 内に突出するように、第一の位置に配置される。

30

【0124】

図 42 および図 43 に見られるように、駆動アセンブリ 120 および駆動棒 140 が引き込まれた位置にある場合、押し棒 156 のプッシャー 156 c は、クリップキャリア 164 に保持された最も遠位にあるクリップ「C1」のバックスパンの近位に配置される。最も遠位のクリップ「C1」は、クリップキャリアの中子 164 b によって、クリップキャリア 164 のチャンネル内に保持される。また、この位置において、上記のように、楔プレート 172 は、最も近位の位置に位置し、その結果、その遠位端 172 a は、顎 106 の近位に位置する。

【0125】

図 43 に見られるように、駆動チャンネル 168 が最も近位の位置にある状態で、その遠位端は、顎 106 の近位カム作用表面 106 b から脱係合する。

40

【0126】

ここで図 44 ~ 図 54 を参照すると、トリガ 108 が初期位置から握られるかまたは起動される場合、最初の行程の第一段階中に、トリガ 108 は、ウィッシュボーンリンク 122 に、クランクプレート 124 を遠位方向に移動させ、これは次に、駆動コネクタ 134 およびプランジャー 135 を遠位に移動させ、そして駆動棒 140 を遠位に移動させる。プランジャー 135 が遠位に移動するにつれて、ばね 136 が最初の量だけ圧縮される。

【0127】

それと同時に、クランクプレート 124 が遠位に移動するにつれて、つめ 224 がクラ

50

ンクプレート 124 の遠位凹部 124 a から移動または回転すると、ラック 124 a の歯がつめ 224 の歯 224 a と係合する。この様式で、クランクプレート 124 は、完全な遠位への行程を完了させずには、最も近位の位置に戻り得ない。

【0128】

図 44 に見られるように、トリガ 108 が最初の量だけ握られると、アーム 127 が、フィードバック部材 126 のレース 126 a を通って並進を開始する。

【0129】

図 46 に見られるように、駆動棒 140 が遠位方向に移動するにつれて、駆動棒 140 はコネクタプレート 174 を遠位方向に押す。押し棒 156 は、第二のスナップクリップ 157 b を介してコネクタプレート 174 に選択的に接続されるので、押し棒 156 は、遠位方向に前進するかまたは引かれる。また、楔プレート 172 は第三のスナップクリップ 157 c を介してコネクタプレート 174 に選択的に接続されるので、楔プレート 172 もまた、遠位方向に前進するかまたは引っ張られる。

10

【0130】

駆動棒 140 が遠位方向に移動するにつれて、その細長スロット 140 a もまた遠位方向に移動し、その結果、スライダジョイント 182 のタブ 182 a は、この細長スロットに対して近位方向に並進する。

【0131】

図 47 ~ 図 49 に見られるように、楔プレート 172 が遠位方向に移動するにつれて、楔プレート 172 のタブ 172 b が楔プレートロック 190 のポケット 190 d 内に保持されているので、楔プレートロック 190 は、遠位方向に移動するかまたは引っ張られ、そのテイル 190 c の歯 190 e に、下ハウジング 152 b に形成された傾斜レッジ 152 f にカム作用させ、これによって、傾斜レッジ 152 f の近位の位置から、傾斜レッジ 152 f の遠位の位置まで移動する。楔プレートロック 190 が遠位方向に移動するにつれて、付勢部材 192 が最初の量だけ圧縮される。図 49 に見られるように、楔プレートロック 190 は、楔プレートロック 190 が下ハウジング 152 b に形成された物理的ストップと当接するまで、遠位方向に移動する。

20

【0132】

図 47 A に見られるように、押し棒 156 が遠位方向に移動するにつれて、前進プレート 162 のフィン 162 b が、押し棒 156 の側部凹部 156 f の近位端と接触または係合するまで、押し棒 156 の側部凹部 156 f 内で所定の距離だけ並進する。

30

【0133】

図 47 B および図 47 C に見られるように、楔プレート 172 が遠位方向に移動するにつれて、コネクタプレート 174 の第二のステム 174 c と第三のスナップクリップ 157 c との接続に起因して、コネクタプレート 174 の第二のステム 174 c は、ガード 198 によって、第三のスナップクリップ 157 c から尚早に接続を外されることを防止される。具体的には、ガード 198 は、第三のスナップクリップ 157 c の枝の先端に作用して、コネクタプレート 174 が遠位方向に移動する際に第二のステム 174 c によって発生される遠位への力によりこれらの枝に作用する力に起因して、これらの枝が外向きに広がることを防止する。

40

【0134】

図 50 に見られるように、押し棒 156 が遠位方向に移動するにつれて、そのプッシャー 156 c が最も遠位のクリップ「C1」のバックスパンと係合し、そして最も遠位のクリップ「C1」を遠位方向に推進し始める。押し棒 156 が最も遠位のクリップ「C1」を遠位方向に移動させるにつれて、最も遠位のクリップ「C1」は、クリップキャリア 164 の中子 164 b の後ろからスナップを外し、そして顎 106 のチャンネル 106 a 内に入り始める。

【0135】

図 51 に見られるように、楔プレート 172 が遠位方向に移動するにつれて、その遠位端 172 a は、顎 106 の間に入り、顎 106 を外向きに広げる。

50

【 0 1 3 6 】

楔プレート 172 は、図 5 2 ~ 図 5 4 に見られるように、一旦、楔プレートロック 190 が下ハウジング 152 b に形成された物理的ストップに当接すると、遠位方向へのさらなる移動を防止される。しかし、駆動棒 140 は、コネクタプレート 174 を遠位方向に移動させ続ける。コネクタプレート 174 は、遠位に力を加えられ続けるので、一旦、第三のスナップクリップ 157 c の枝の先端がガード 198 を越えて遠位に移動すると、第二のステム 174 c に作用する力は、第三のスナップクリップ 157 c の枝を外向きに広げ、そして第二のステム 174 c をこれらの枝の間からスナップを外すために十分であり、これによって、コネクタプレート 174 が遠位方向に移動し続けることを可能にする。

【 0 1 3 7 】

ここで図 5 5 ~ 図 6 9 を参照すると、トリガ 108 が、最初の行程の第一段階から、最初の行程の第二段階を通してさらに握られるかまたは起動されると、トリガ 108 は、ウィッシュボーンリンク 122 に、クランクプレート 124 をさらに遠位方向に移動させ、これは次に、駆動コネクタ 134 および引き続いてプランジャー 135 を、さらに遠位に移動させ、そして駆動棒 140 をさらに遠位に移動させる。プランジャー 135 が遠位に移動するにつれて、ばね 136 がさらなる量だけ圧縮される。

【 0 1 3 8 】

それと同時に、クランクプレート 124 が遠位に移動するにつれて、そのラック 124 a の歯が、つめ 224 の歯 224 a に対してさらに遠位に移動する。従って、クランクプレート 124 は依然として、完全な遠位への行程を完了させずには、最も近位の位置に戻りえない。

【 0 1 3 9 】

図 5 5 に見られるように、クランクプレート 124 が遠位に移動するにつれて、所定の距離の後に、そのアーム 124 d がアクチュエータプレート 128 のフィンガー 128 b と係合または接触する。クランクプレート 124 がさらに遠位に前進すると、クランクプレート 124 は、アクチュエータプレート 128 に遠位方向に力を加えるかまたは引き、これによって、計数器起動レバー 130 を起動させて、計数器機構 132 を起動させる。

【 0 1 4 0 】

具体的には、アクチュエータプレート 128 が遠位に十分な距離だけ移動すると、計数器起動レバー 130 の第二のアーム 130 b がそのスロット 128 a 内でカム作用して回転するように推進され、その結果、計数器起動レバー 130 の第一のアーム 130 a が計数器機構 132 と係合し、これによって、そのディスプレイに変化を起こす。具体的には、このディスプレイは、外科手術用クリップアプライア 100 内に残っているクリップの数を表示し、1 ずつ減少する。あるいは、クリップ計数器機構は、1 ずつ増加するか、または他の何らかの変化を生じる。

【 0 1 4 1 】

トリガ 108 がさらに握られると、アーム 127 は、フィードバック部材 126 のレース 126 a を通って並進し続ける。トリガ 108 を握っている最中のこの時点で、外科手術用クリップが顎 106 内に装填される。従って、アーム 127 は、フィードバック部材 126 のレース 126 a に形成された段 126 b と相互作用し、そして可聴 / 触知可能指標を生じて、使用者に、クリップが顎内に装填されたことを伝える。

【 0 1 4 2 】

図 5 7 に見られるように、駆動棒 140 がさらに遠位方向に移動するにつれて、駆動棒 140 は、コネクタプレート 174 を遠位方向に押し続ける。押し棒 156 は、第二のスナップクリップ 157 b を介してコネクタプレート 174 に選択的に接続されたままであるので、押し棒 156 は、遠位方向にさらに前進するかまたは引っ張られる。しかし、楔プレート 172 の第三のスナップクリップ 157 c がコネクタプレート 174 の第二のステム 174 c から接続を外されているので、楔プレート 172 は、遠位方向にさらには前進も引っ張られもしない。

【 0 1 4 3 】

10

20

30

40

50

図56A～図56Cに見られるように、押し棒156が遠位方向に移動し続けるにつれて、前進プレート162の1対のフィン162bが押し棒156の側部凹部156fの近位端によって係合された状態で、押し棒156は、前進プレート162を遠位方向に前進させるかまたは引っ張る。

【0144】

図56Bおよび図56Cに見られるように、前進プレート162が遠位に前進するにつれて、スナップクリップ157dが近位保持溝157mから脱係合し、そして上ハウジング152aに形成された遠位保持溝157nと係合する。

【0145】

図57に見られるように、駆動棒140は、スライダジョイント182のタブ182aが駆動棒140の細長スロット140aの最も近位の位置まで相対的に並進するまで、遠位方向に移動する。

【0146】

押し棒156が遠位方向に移動し続けるにつれて、押し棒156は、フィン162bを介して、前進プレート162を遠位方向に推進し続ける。図58に見られるように、前進プレート162が遠位方向に移動するにつれて、クリップ従動子166の遠位タブ166bが、クリップ従動子166をクリップキャリア164に対して遠位方向に推進するために、クリップ従動子166の遠位タブ166bを受容する窓162aの近位縁部により係合され、これによって、クリップのスタック「C」を漸増する量だけ前進させる。クリップ従動子166が遠位方向に移動するにつれて、その近位タブ166cは、クリップキャリア164の相対的に近位の窓164aから、クリップキャリア164の相対的に遠位の窓164aまで、窓164aの1つ分だけ遠位に移動させられる。

【0147】

図58～図60に見られるように、押し棒156が遠位方向に移動するにつれて、押し棒156に支持される第一のスナップクリップ157aが、上ハウジング152aのボス152hにスナップし、これによって、押し棒156を前方位置に維持する。

【0148】

さらに、図61に見られるように、押し棒156が遠位方向に移動し続けるにつれて、クリップのスタック「C」が遠位方向に移動させられる。

【0149】

図62に見られるように、押し棒156が遠位方向に移動するにつれて、そのプッシャー156cは、最も遠位のクリップ「C1」が顎106のチャンネル106a内に完全に入るまで、最も遠位のクリップ「C1」を遠位方向に移動させ続ける。作動において、押し棒156のプッシャー156cは、装填されたクリップ「C」に安定性を提供し、そしてこのクリップの適切な位置を維持する目的で、クリップ「C」の形成中、クリップ「C」のバックパンと接触したままである。

【0150】

図63に見られるように、駆動棒140が遠位方向にさらに移動するにつれて、その肩部140cは、駆動チャンネル168の最も近位の端部に接触する。この様式で、駆動棒140が遠位方向にさらに移動するにつれて、駆動棒140は、駆動チャンネル168を遠位方向に移動または推進する。

【0151】

図64に見られるように、駆動チャンネル168が遠位方向に移動するにつれて、駆動チャンネル168の側壁168bに形成された窓168eの近位縁部が楔プレート194の歯194cに接触し、楔プレート解除機構194を回転させる。楔プレート解除機構194が回転するにつれて、そのハンマー194bが楔プレートロック190の歯190eを押し付け、歯190eを後ろの傾斜レッジ152fから外すように推進するかまたは追い出す。このようにする間に、図65に見られるように、付勢部材192が圧縮を解除され、これによって、楔プレートロック190を近位方向に移動させる。図66に見られるように、楔プレートロック190が近位方向に移動するにつれて、楔プレート172がこの楔

10

20

30

40

50

プレートロック 190 に接続されているので、楔プレート 172 は、近位方向に移動して、その遠位端 172 a を顎 106 との係合から引き抜く。

【0152】

図 58 および図 67 ~ 図 69 に見られるように、押し棒 156 は、ボス 152 h と第一のスナップクリップ 157 a との接続により遠位位置に維持されているので、駆動棒 140 がさらに遠位方向に移動するにつれて、コネクタプレート 174 に作用する力は、第二のスナップクリップ 157 b をコネクタプレート 174 の第一のステム 174 b から脱係合させ、これによって、コネクタプレート 174 が遠位方向に移動し続けることを可能にする。

【0153】

図 67 A ~ 図 69 A に見られるように、ある実施形態において、第二のスナップクリップ 157 b の枝の先端は、外向きに突出するように構成され得、これによって、後方上ハウジング 154 (図 9 を参照のこと) の表面と係合し、これによって、第二のスナップクリップ 157 b がコネクタプレート 174 の第一のステム 174 b から尚早に脱係合することを防止する。この実施形態において、凹部が、後方上ハウジング 154 の表面に形成され得、その位置は、第二のスナップクリップ 157 b の枝が外向きに広がり得る位置と一致し、従って、コネクタプレート 174 の第一のステム 174 b が脱係合して遠位方向に移動し続けることを可能にする。

【0154】

図 70 ~ 図 75 に見られるように、トリガ 108 が最初の行程の最終段階を介して起動されるにつれて、トリガ 108 は、ウィッシュボーンリンク 122 に、クランクプレート 124 を遠位方向にさらに移動させ、これは次に、駆動コネクタ 134 およびプランジャー 135 をさらに遠位に移動させ、そして駆動棒 140 を遠位にさらに移動させる。駆動コネクタ 134 が遠位に移動するにつれて、ばね 136 がさらなる量だけ圧縮される。

【0155】

それと同時に、クランクプレート 124 が遠位に移動するにつれて、そのラック 124 a の歯が、つめ 224 の歯 224 a に対してさらに遠位に移動して、つめ 224 の歯 224 a がクランクプレート 124 の近位凹部 124 c に入る際に、ラック 124 a の歯が つめ 224 の歯 224 a と脱係合し、従ってリセットされる位置にくる。従って、クランクプレート 124 は、トリガ 108 の解放の際に、最も近位の位置まで戻り得る。

【0156】

図 72 ~ 図 74 に見られるように、トリガ 108 の最初の行程の最終段階の間に、駆動チャンネル 168 およびストラップ 167 は、顎 106 に対して遠位方向に移動し、その結果、駆動チャンネル 168 の遠位縁部が顎 106 のカム作用表面 106 b に係合し、顎 106 を閉じさせ、そしてこれらの顎の間に位置するクリップ「C1」を形成する。図 74 に見られるように、押し棒 156 のプッシャー 156 c は遠位位置に残っており、クリップ「C」の形成中、このクリップ「C」のバックパンと接触している。

【0157】

図 55 に見られるように、トリガ 108 が最後の量だけ握られると、アーム 127 は、フィードバック部材 126 のレース 126 a を通って並進し続ける。トリガ 108 を握っている間のこの時点において、外科手術用クリップ「C1」は、顎 106 によって完全に形成される。従って、アーム 127 は、フィードバック部材 126 のレース 126 a に形成された別の段 126 b と相互作用し、そして可聴 / 触知可能指標を生じ、使用者に、外科手術用クリップ「C1」が顎 106 によって形成されたことを伝える。

【0158】

図 75 に見られるように、外科手術用クリップ「C1」は、脈管「V」または他の任意の生物学的組織上に形成またはクリンプされ得る。

【0159】

ここで図 76 ~ 図 84 を参照すると、トリガ 108 が握られていない位置または非作動位置まで戻される場合のクリップアプライア 100 の作動が示される。図 76 に見られる

10

20

30

40

50

ように、トリガが握られていない位置まで戻るにつれて、ばねが非圧縮状態にされ、これによって、クランクプレート 124 を近位方向に移動させ、これは次に、プランジャーを近位に移動させ、そして駆動棒を近位に移動させる。つめ 224 がリセットされているので、ここでクランクプレート 124 は、つめ 224 の歯 224 a がクランクプレート 124 の遠位凹部に再度入るまで、近位に移動される。

【0160】

図 76A に見られるように、クランクプレート 124 が近位に移動するにつれて、そのアーム 124 d がアクチュエータプレート 128 のフィンガー 128 b と脱係合し、アクチュエータプレート 128 が近位方向に移動することを可能にする。アクチュエータプレート 128 が近位に移動するにつれて、計数器起動レバー 130 の第二のアーム 130 b がそのスロット 128 b 内でカム作用し、そして回転するように推進され、その結果、計数器起動レバー 130 の第一のアーム 130 a が計数器機構 132 から脱係合する。

10

【0161】

図 77 に見られるように、駆動棒 140 が近位方向に移動するにつれて、駆動棒 140 は、第一のステム 174 b を介してコネクタプレート 174 を引く。コネクタプレート 174 が近位方向に移動するにつれて、第一のステム 174 b が第二のスナップクリップ 157 b の枝に係合し、そして第二のスナップクリップ 157 b を介して押し棒 156 を近位方向に推進する。

【0162】

図 78 に見られるように、押し棒 156 に作用する力が押し棒 156 を近位方向に移動させるにつれて、この力が、上ハウジング 152 a のボス 152 h と一緒になった第一のスナップクリップ 157 a の保持力を上回り、これによって、第一のスナップクリップ 157 a をボス 152 h から解放し、そして押し棒 156 が近位方向に移動することを可能にする。

20

【0163】

図 79 に見られるように、押し棒 156 が近位方向に移動し続けるにつれて、その側部凹部 156 f の遠位端が前進プレート 162 のフィン 162 b と係合し、そして前進プレート 162 を近位方向に移動させる。押し棒 156 が近位方向に移動するにつれて、押し棒のノーズ 156 c が、残りのクリップのスタック「C」の最も遠位のクリップの後ろにスナップし、これによって、新たな最も遠位のクリップ「C1」になる。

30

【0164】

図 80 に見られるように、前進プレート 162 が近位方向に移動するにつれて、クリップキャリア 164 内でのクリップ従動子 166 の相対位置を保持する目的で、クリップ従動子 166 の近位タブ 166 c がクリップキャリア 164 の窓 164 a の近位縁部と係合する。前進プレート 162 が近位方向に移動するにつれて、その遠位タブ 166 b が、前進プレート 162 の相対的に近位の窓 162 a から、前進プレート 162 の相対的に遠位の窓 162 a へと、窓 162 a の 1 つ分だけ遠位に進ずる。

【0165】

図 81 に見られるように、押し棒 156 がその近位への移動を止め、上ハウジング半体 152 a の内側表面から突出するボスと係合すると、コネクタプレート 174 の連続的な近位への移動は、第一のステム 174 b を第二のスナップクリップ 157 b と再度係合させる。押し棒 156 の近位への移動が停止した状態で、コネクタプレート 174 の連続的な近位への移動は、第一のステム 174 b を第二のスナップクリップ 157 b と再度係合させる。

40

【0166】

図 82 および図 83 に見られるように、コネクタプレート 174 が近位方向に移動するにつれて、駆動棒 140 の近位への移動の結果として、第二のステム 174 c が第三のスナップクリップ 157 c の枝と係合し、そして第三のスナップクリップ 157 c を介して、楔プレート 172 を近位方向に推進する。楔プレート 172 が近位方向に移動するにつれて、楔プレートロック 190 は、楔プレートロック 190 が下ハウジング半体 152 b

50

の物理的ストップと接触し、これによって楔プレート 172 の近位への移動を止めるまで、近位方向に移動する。一旦、第三のスナップクリップ 157c の枝の先端がガード 198 を近位に越えて移動し、楔プレート 172 がその近位への移動を止めると、コネクタプレート 174 の連続的な近位への移動は、第二のステム 174c を第三のスナップクリップ 157c と再度係合させる。

【0167】

トリガ 108 が非起動位置に戻されると、アーム 127 は、フィードバック部材 126 のレース 126a を通って並進し、そしてフィードバック部材 126 のレース 126a に形成された別の段 126b と相互作用し、そして可聴/触知可能指標を生じ、使用者に、外科手術用クリップアプライア 100 がリセットされ、そして再度発射する準備ができたことを伝える。

10

【0168】

ここで図 84 ~ 図 85 を参照すると、最後の外科手術用クリップ「C」の適用後の、外科手術用クリップアプライア 100 の構成が示されている。図 84 および図 85 に見られるように、最後の外科手術用クリップが前進および形成されると、押し棒 156 が依然として前進位置または遠位位置にある状態で、クリップ従動子 166 は、そのロックアウトプレート 165 が前進プレート 162 の窓 162a を通して上向きに付勢されて押し棒 156 の遠位窓 156d に入るために十分な量で、割送りプレート 158 によって漸増的に前進させられている。押し棒 156 の遠位窓 156d 内でのロックアウトプレート 165 の位置決めは、そのキャッチ 156e がロックアウトプレート 165 の窓 165b に入

20

【0169】

押し棒 156 は、その最も近位の位置に移動し得ないか、または移動することを防止されるので、図 86 に見られるように、つめ 224 は、クランクプレート 124 のラック 124a と係合したままであり、そして近位凹部 124c に入ることを許容されず、従って、リセットされない。つめ 224 はリセットされ得ないので、クランクプレート 124 は、遠位または近位への移動をロックまたは停止される。

30

【0170】

上記記載は、本開示の本の例示であることが理解されるべきである。種々の変更および改変が、本開示から逸脱することなく当業者により考案され得る。従って、本開示は、このような全ての変更、改変および変形を包含することが意図される。添付の図面を参照しながら記載された実施形態は、本開示の特定の例を実証するためのみに提示される。上記および/または添付の特許請求の範囲に記載されるものと実質的に異なる他の要素、工程、方法および技術もまた、本開示の範囲内であることが意図される。

【符号の説明】

【0171】

- 100 クリップアプライア
- 102 ハンドルアセンブリ
- 103 ハウジング
- 103a、103b 半セクション
- 103c 窓
- 104 シャフトアセンブリ
- 106 顎
- 106a チャンネル
- 108 トリガ
- 110 ノブ

40

50

- 1 2 0 駆動アセンブリ
- 1 2 2 ウィッシュボーンリンク
- 1 2 4 クランクプレート
- 1 3 4 駆動コネクタ
- 1 3 5 プランジャー
- 1 3 6 ばね
- 1 4 0 駆動棒

【 図 1 】

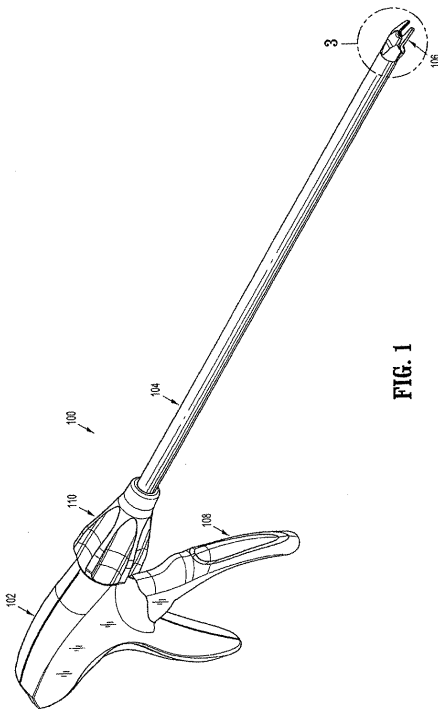


FIG. 1

【 図 2 】

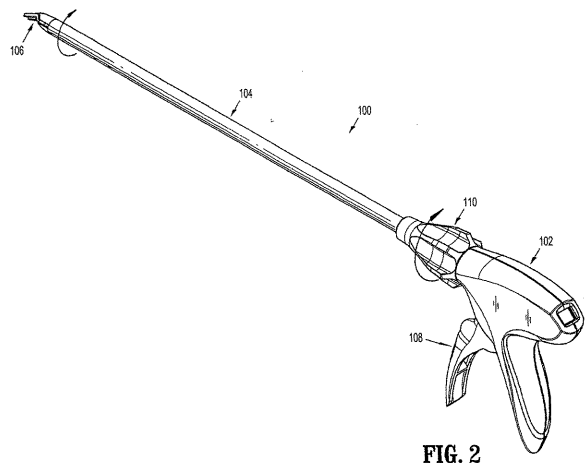


FIG. 2

【 図 3 】

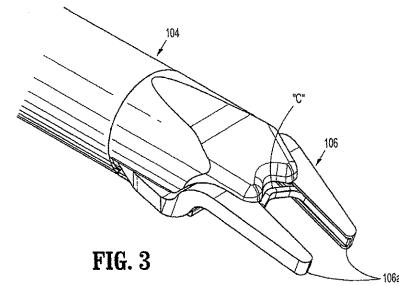


FIG. 3

【 図 4 】

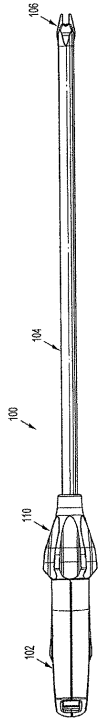


FIG. 4

【 図 5 】

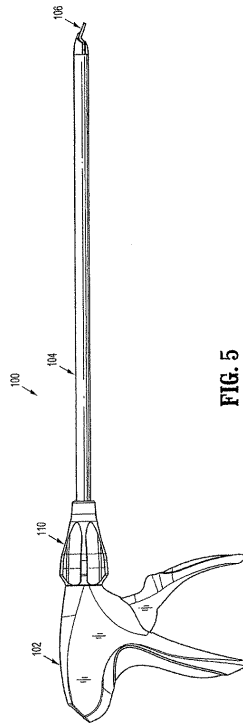


FIG. 5

【 図 6 】

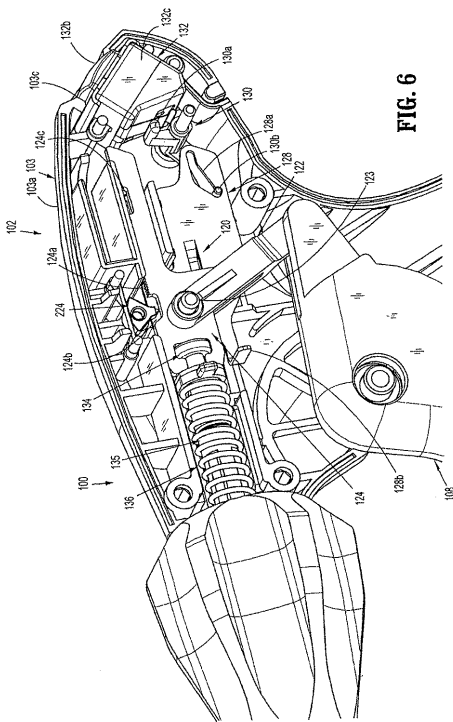


FIG. 6

【 図 7 】

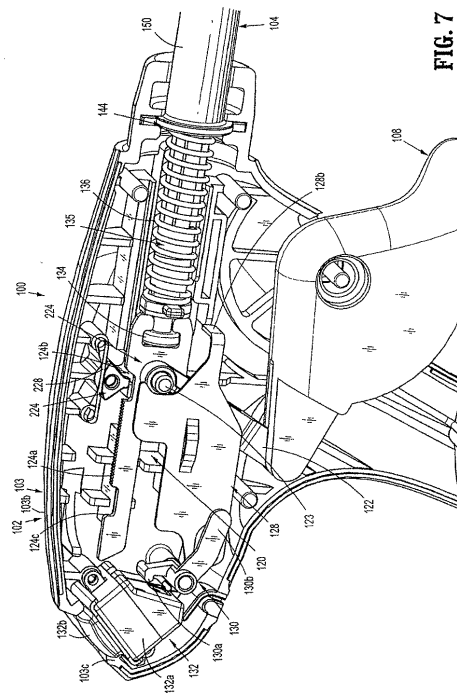


FIG. 7

【 図 8 】

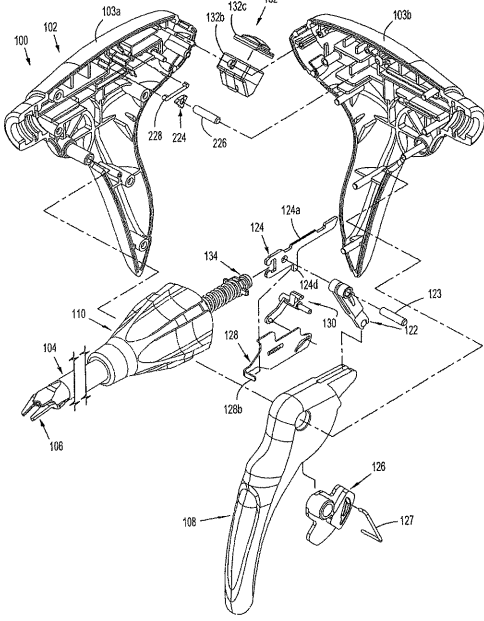


FIG. 8

【 図 8 A 】

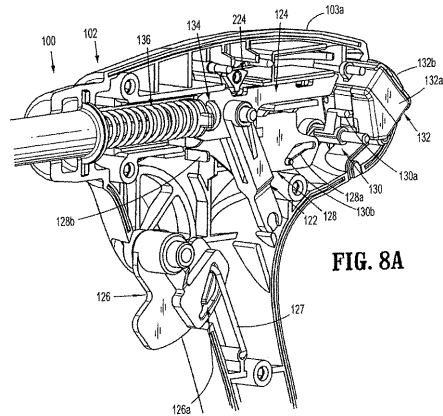


FIG. 8A

【 図 8 B 】

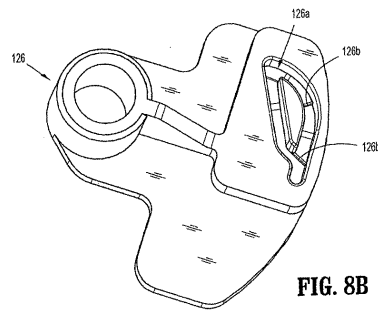


FIG. 8B

【 図 9 】

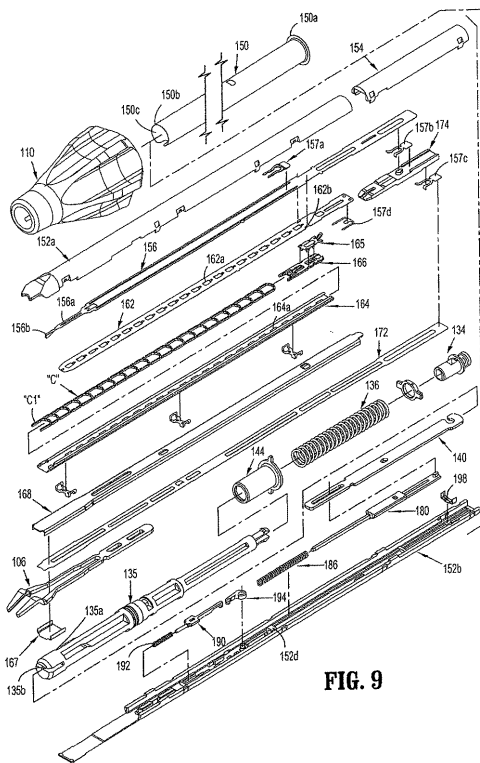


FIG. 9

【 図 10 】

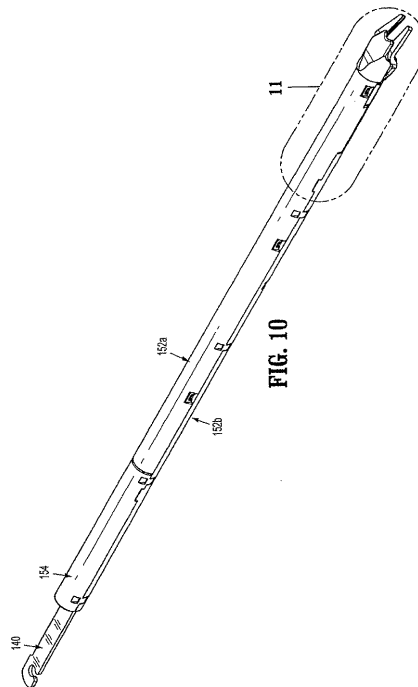
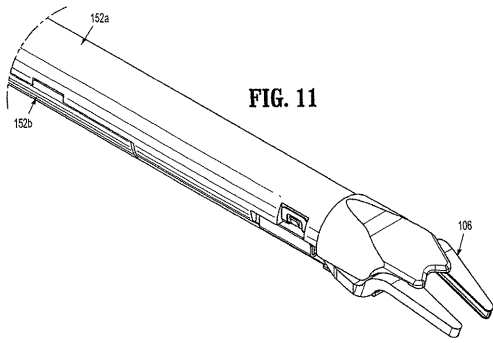
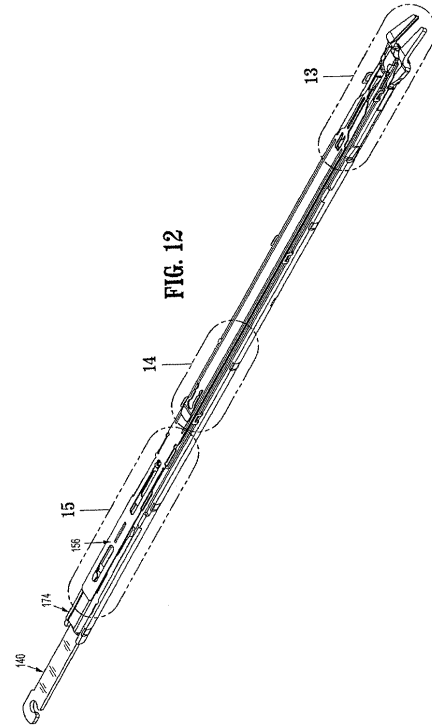


FIG. 10

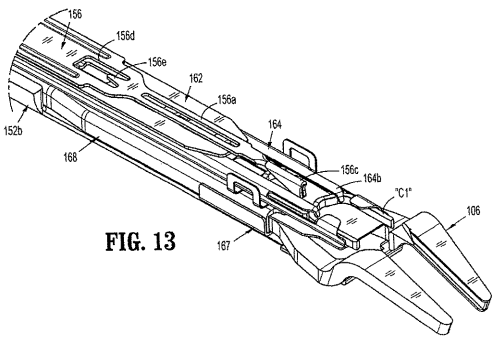
【 図 1 1 】



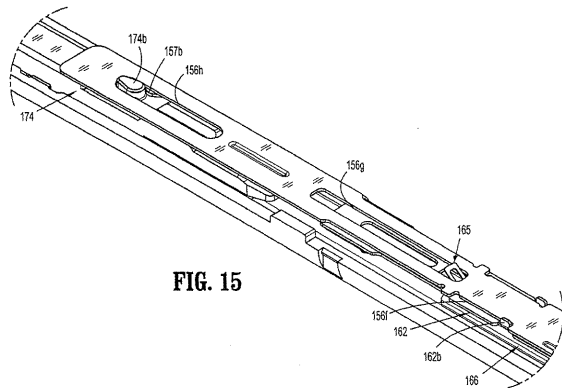
【 図 1 2 】



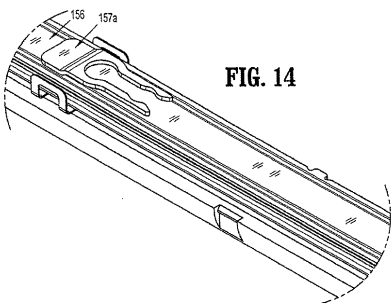
【 図 1 3 】



【 図 1 5 】



【 図 1 4 】



【 図 1 6 】

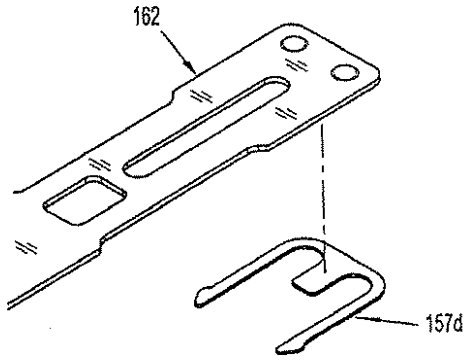


FIG. 16

【 図 1 7 】

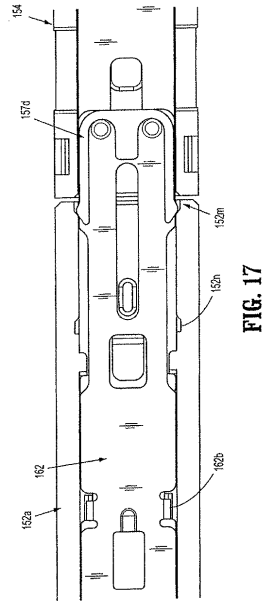


FIG. 17

【 図 1 8 】

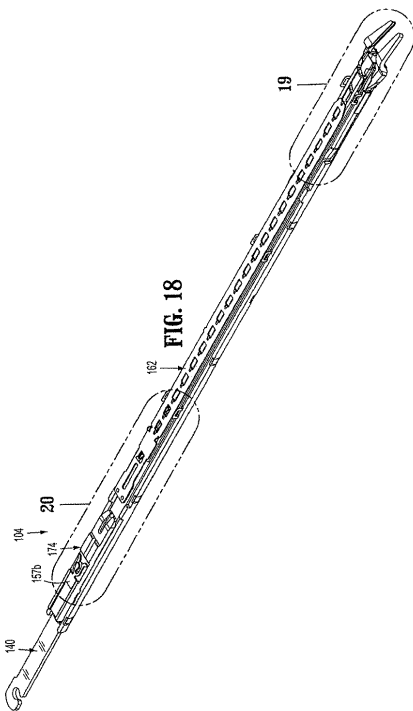


FIG. 18

【 図 1 9 】

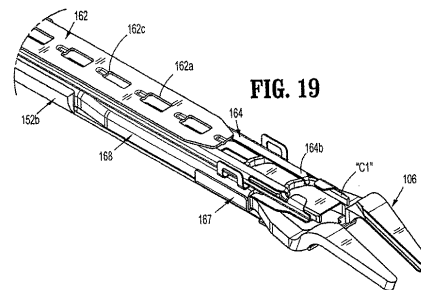


FIG. 19

【 図 2 0 】

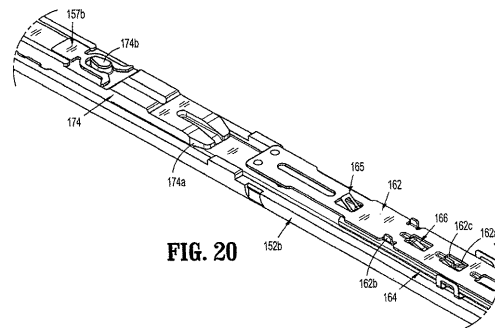
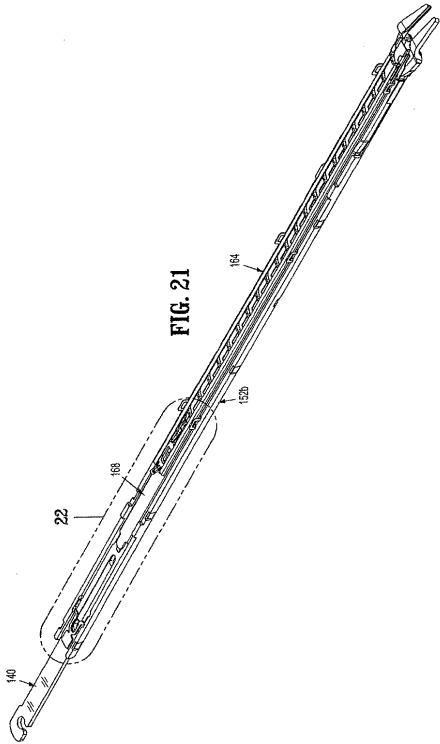
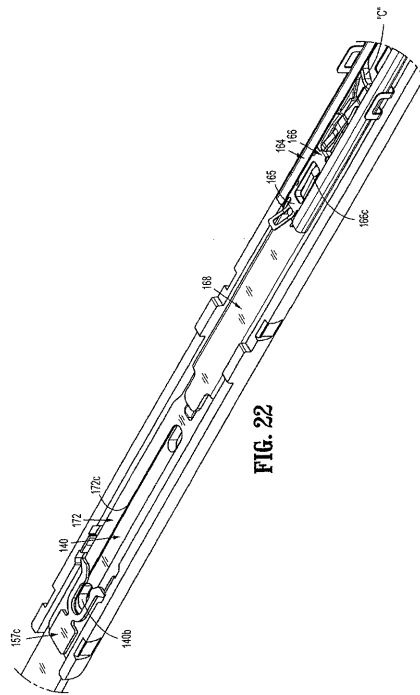


FIG. 20

【 図 2 1 】



【 図 2 2 】



【 図 2 3 】

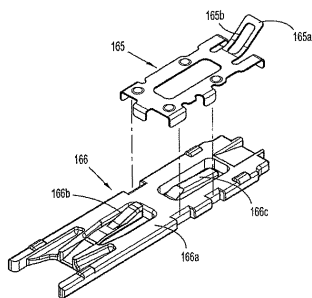


FIG. 23

【 図 2 5 】

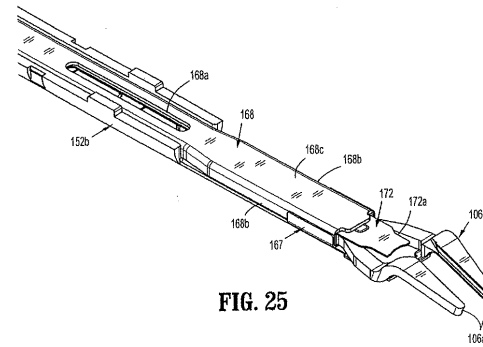


FIG. 25

【 図 2 3 A 】

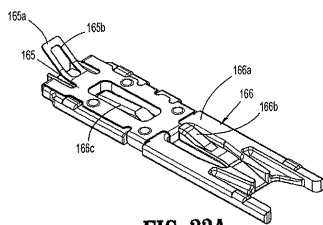


FIG. 23A

【 図 2 6 】

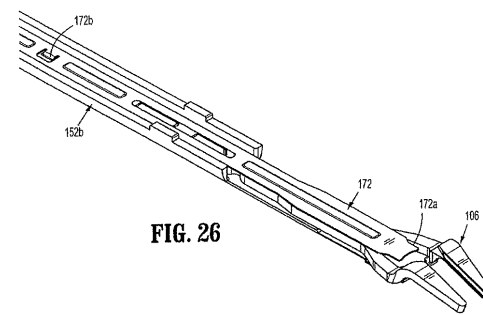


FIG. 26

【 図 2 4 】

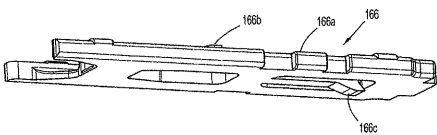


FIG. 24

【 図 27 】

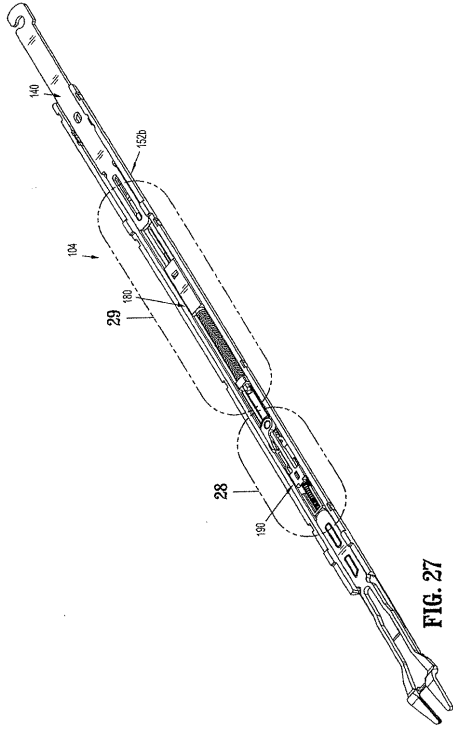


FIG. 27

【 図 28 】

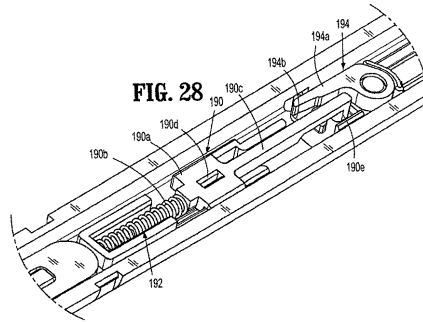


FIG. 28

【 図 29 】

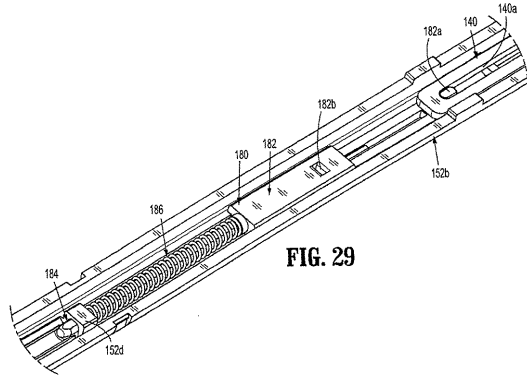


FIG. 29

【 図 30 】

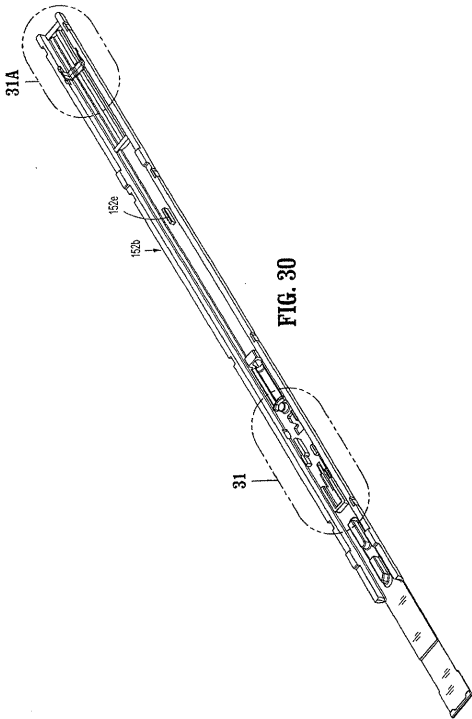


FIG. 30

【 図 31 】

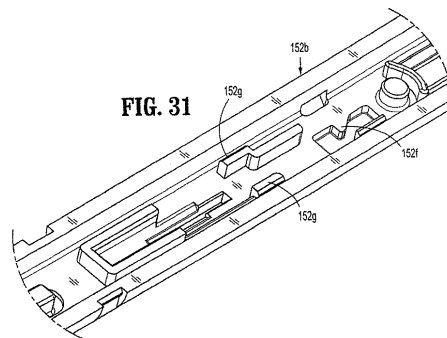


FIG. 31

【 図 31 A 】

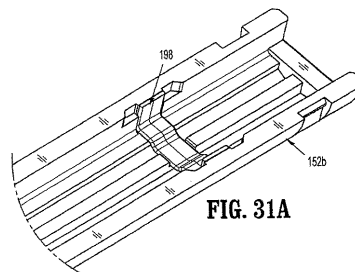
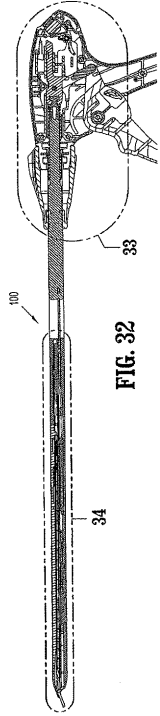
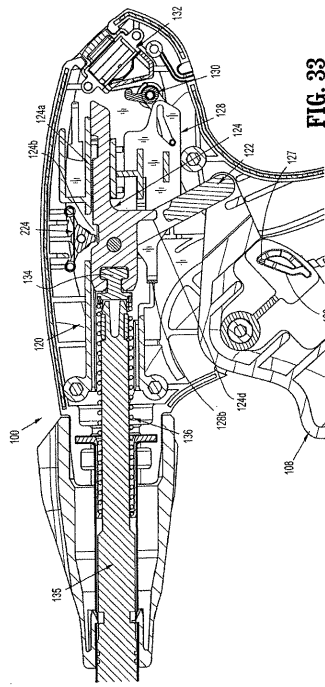


FIG. 31A

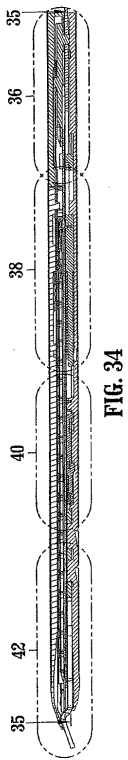
【 3 2 】



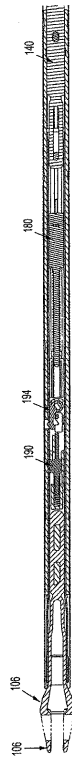
【 3 3 】



【 3 4 】



【 3 5 】



【 4 1 】

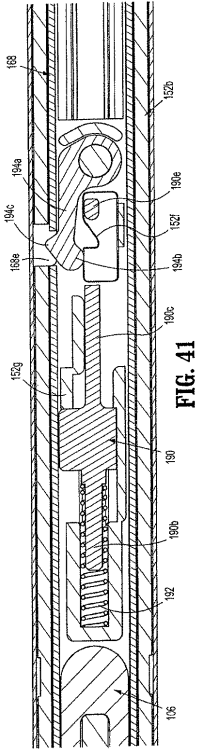


FIG. 41

【 4 2 】

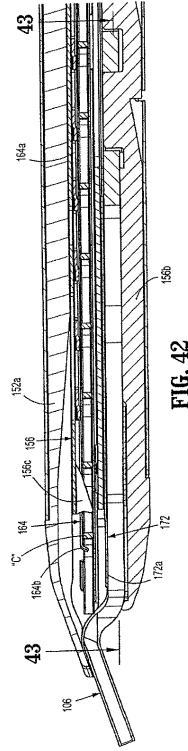


FIG. 42

【 4 3 】

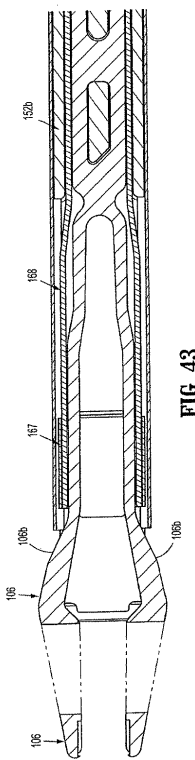


FIG. 43

【 4 4 】

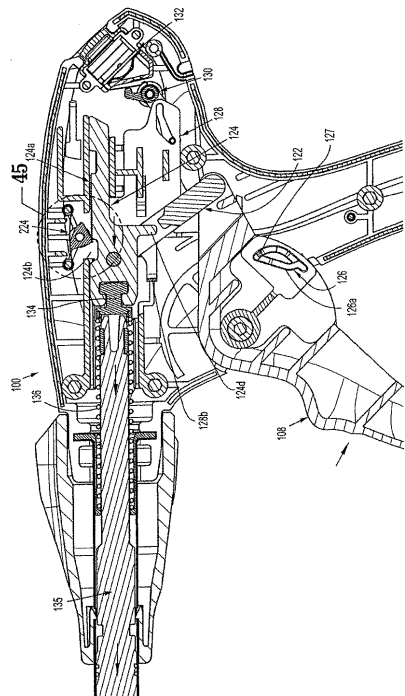


FIG. 44

【 図 4 5 】

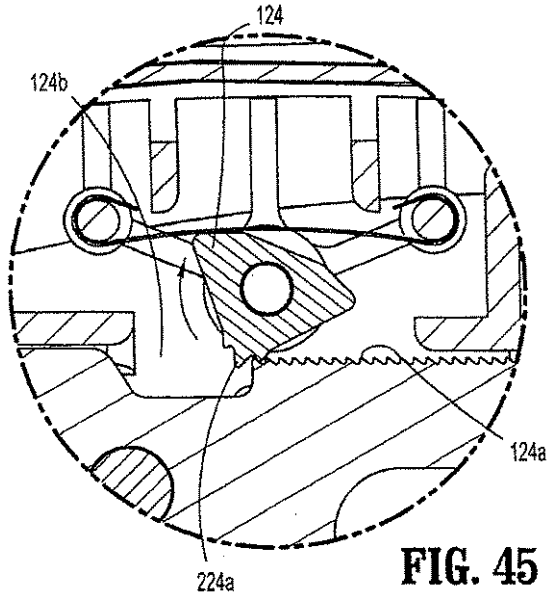


FIG. 45

【 図 4 6 】

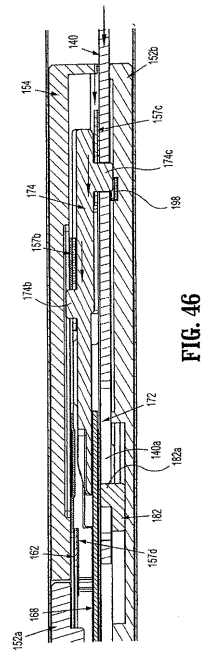


FIG. 46

【 図 4 7 】

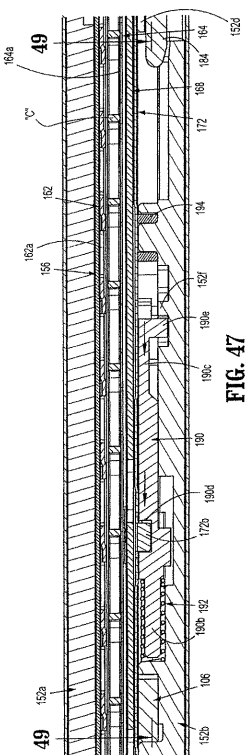


FIG. 47

【 図 4 7 A 】

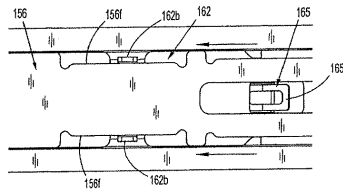


FIG. 47A

【 図 4 7 B 】

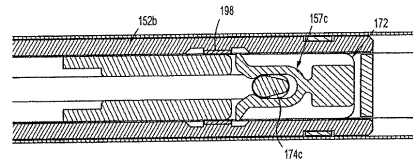


FIG. 47B

【 図 4 7 C 】

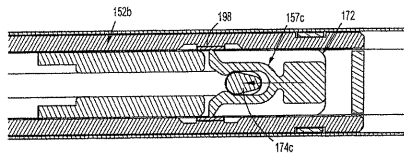


FIG. 47C

【 図 4 8 】

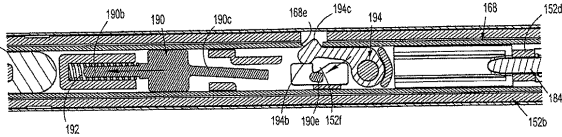


FIG. 48

【 図 4 9 】

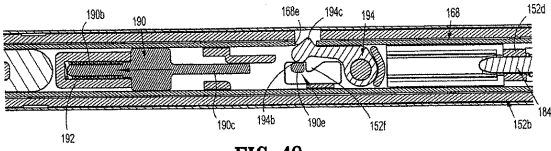


FIG. 49

【 図 5 0 】

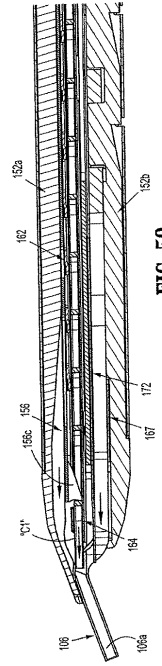


FIG. 50

【 図 5 1 】

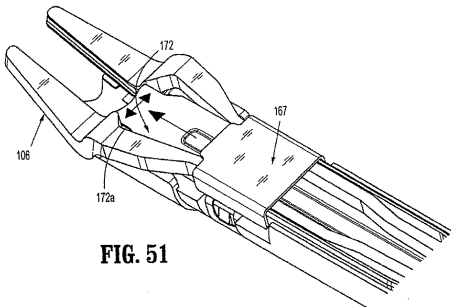


FIG. 51

【 図 5 4 】

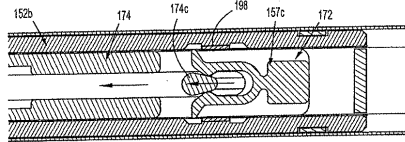


FIG. 54

【 図 5 2 】

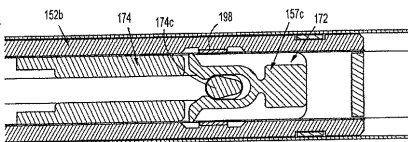


FIG. 52

【 図 5 3 】

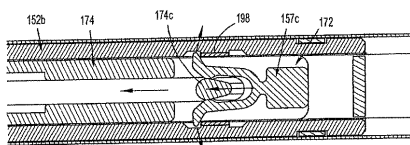


FIG. 53

【 図 5 5 】

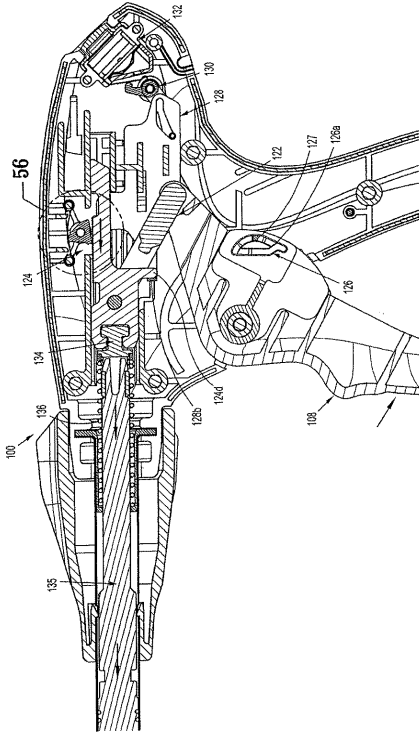


FIG. 55

【 図 5 6 】

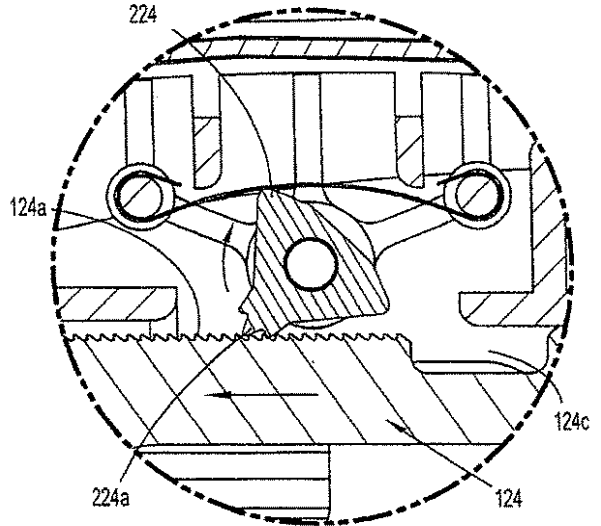


FIG. 56

【 図 5 6 A 】

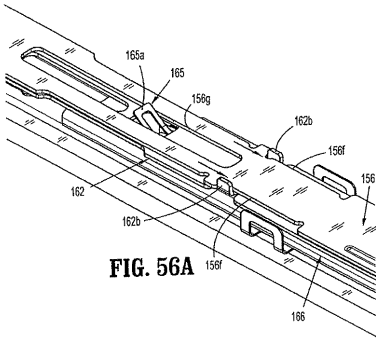


FIG. 56A

【 図 5 7 】

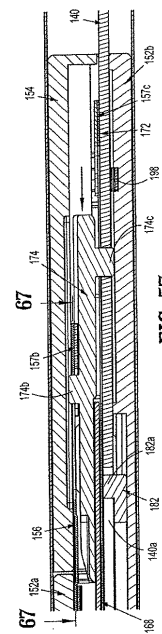


FIG. 57

【 図 5 6 B 】

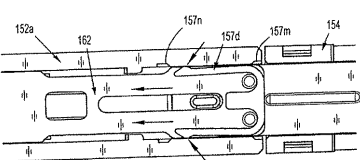


FIG. 56B

【 図 5 6 C 】

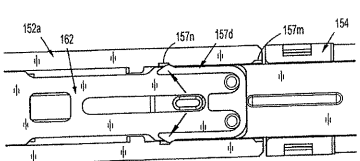


FIG. 56C

【 58 】

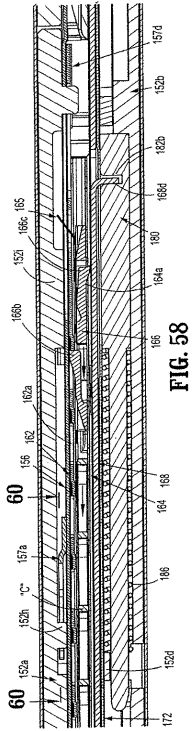


FIG. 58

【 59 】

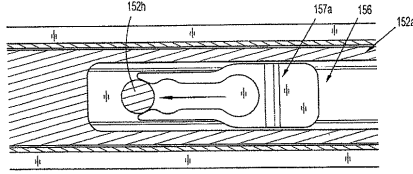


FIG. 59

【 60 】

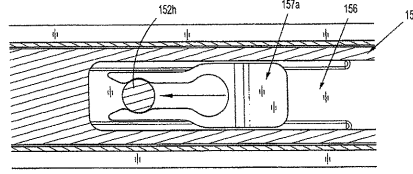


FIG. 60

【 61 】

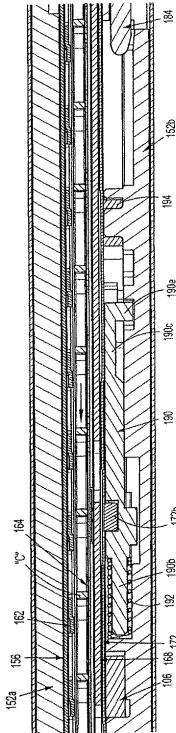
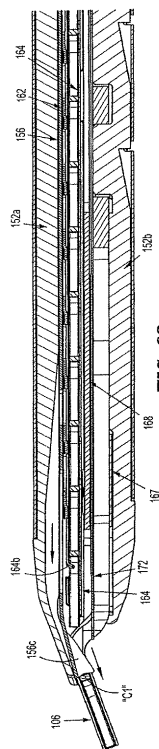


FIG. 61

【 62 】



【 図 6 3 】

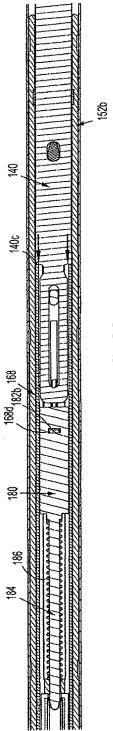


FIG. 63

【 図 6 4 】

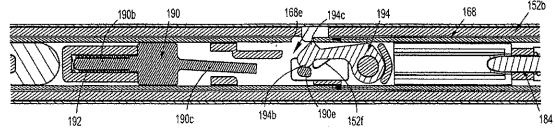


FIG. 64

【 図 6 5 】

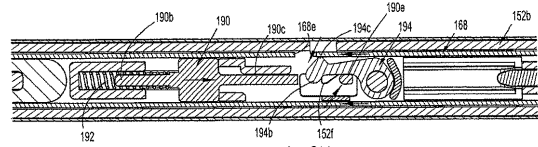


FIG. 65

【 図 6 6 】

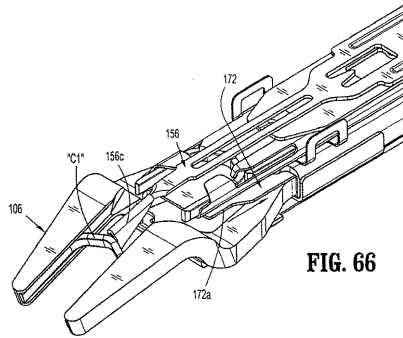


FIG. 66

【 図 6 7 】

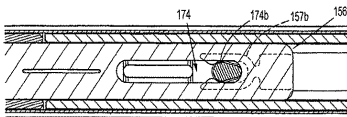


FIG. 67

【 図 6 9 A 】

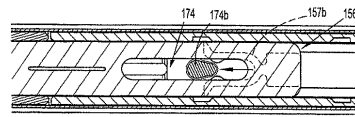


FIG. 69A

【 図 6 7 A 】

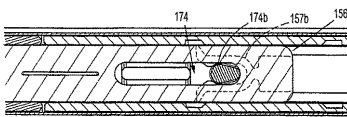


FIG. 67A

【 図 6 8 】

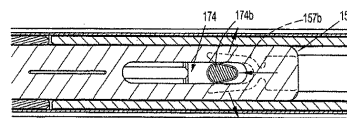


FIG. 68

【 図 6 8 A 】

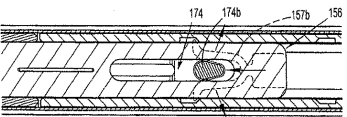


FIG. 68A

【 図 6 9 】

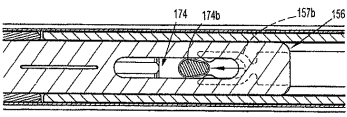


FIG. 69

【 図 7 0 】

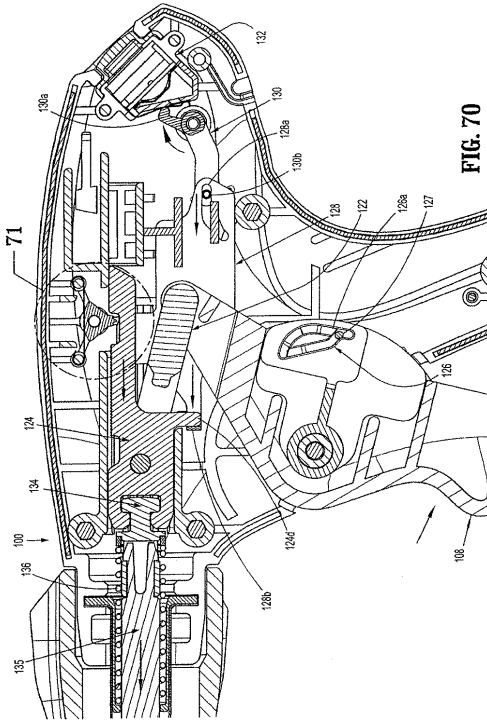


FIG. 70

【 図 7 1 】

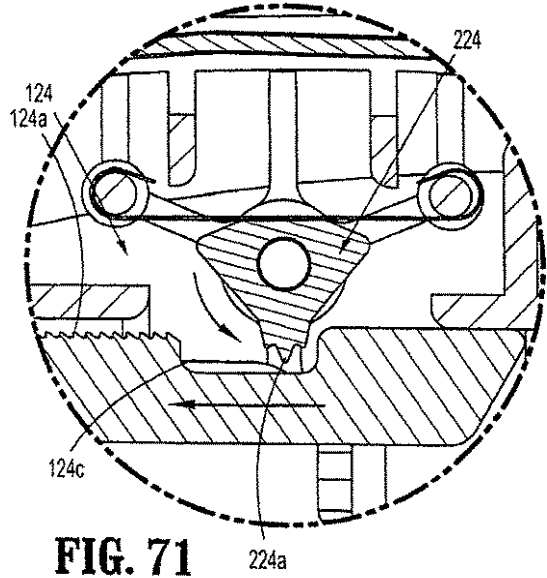


FIG. 71

【 図 7 2 】

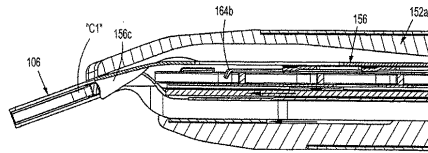


FIG. 72

【 図 7 3 】

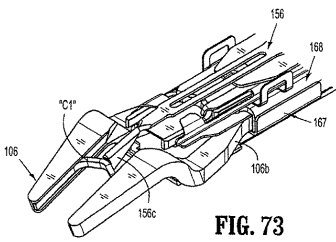


FIG. 73

【 図 7 4 】

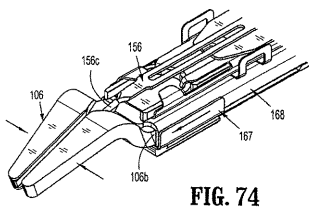


FIG. 74

【 図 7 5 】

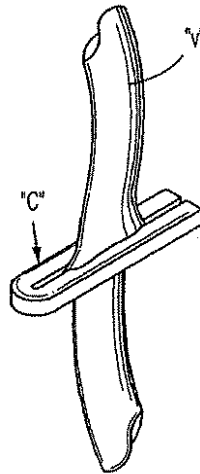


FIG. 75

【 図 7 6 】

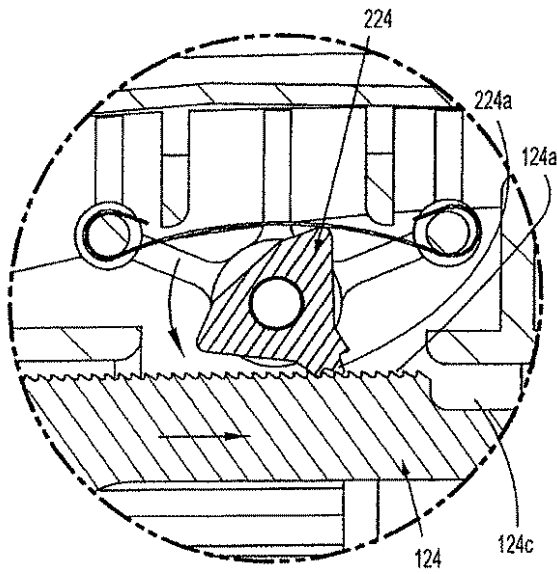


FIG. 76

【 図 7 6 A 】

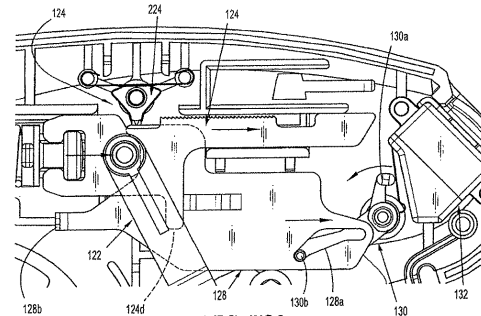


FIG. 76A

【 図 7 7 】

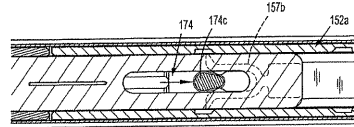


FIG. 77

【 図 7 8 】

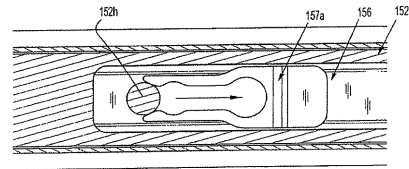


FIG. 78

【 図 7 9 】

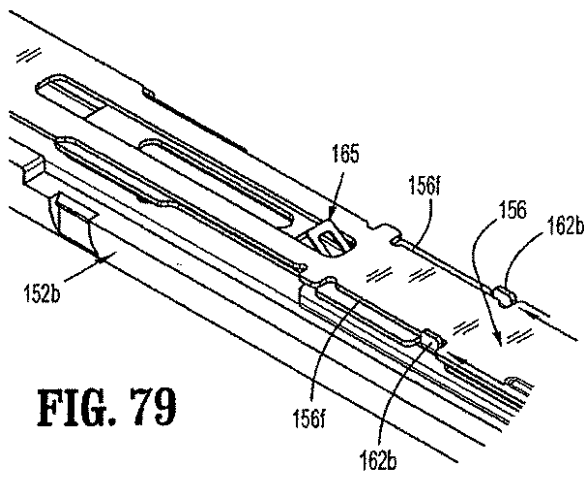


FIG. 79

【 図 8 0 】

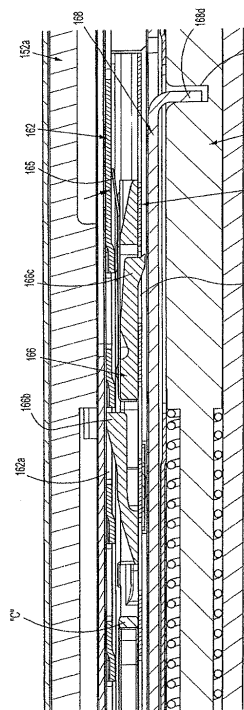


FIG. 80

【 図 8 1 】

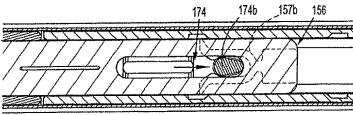


FIG. 81

【 図 8 2 】

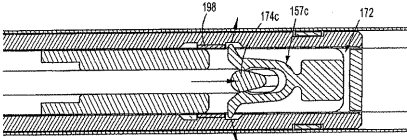


FIG. 82

【 図 8 3 】

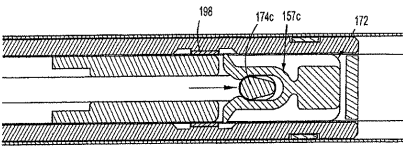


FIG. 83

【 図 8 4 】

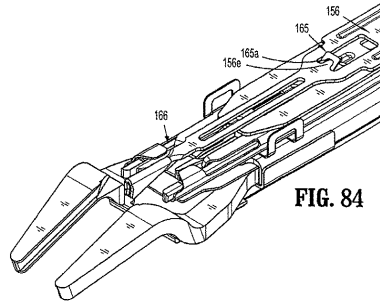


FIG. 84

【 図 8 5 】

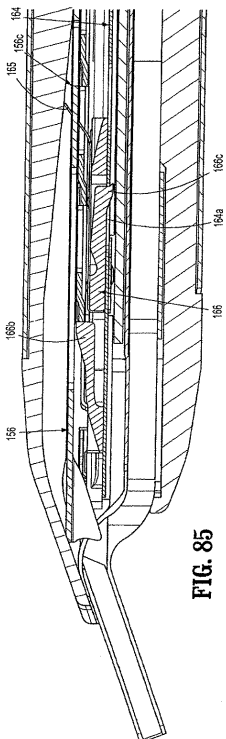


FIG. 85

【 図 8 6 】

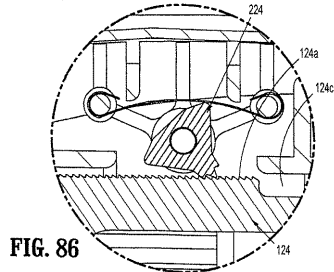


FIG. 86

フロントページの続き

(72)発明者 ケニス エイチ . ホイットフィールド

アメリカ合衆国 コネチカット 08511, ニュー ヘイブン, ノートン ストリート 3
35

Fターム(参考) 4C160 CC12 MM32 MM33 NN04 NN16

专利名称(译)	单端内窥镜手术夹具施放器		
公开(公告)号	JP2014087651A	公开(公告)日	2014-05-15
申请号	JP2013229070	申请日	2013-11-05
[标]申请(专利权)人(译)	柯惠有限合伙公司		
申请(专利权)人(译)	Covidien公司有限合伙		
[标]发明人	グレゴリーソレンティノ ケニスエイチホイトフィールド		
发明人	グレゴリー ソレンティノ ケニス エイチ. ホイトフィールド		
IPC分类号	A61B17/068		
CPC分类号	A61B17/1285		
FI分类号	A61B17/10.320 A61B17/068		
F-TERM分类号	4C160/CC12 4C160/MM32 4C160/MM33 4C160/NN04 4C160/NN16		
优先权	61/092796 2008-08-29 US 12/539069 2009-08-11 US		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

要解决的问题：为用户提供任何外科手术事件的提示并改善器械的操作。一种用于将手术夹子施加到身体组织上的装置，该装置是包括触发器和驱动杆的手柄组件，该驱动杆用于致动触发器。手柄和轴组件104，可通过扳机往复移动，壳体包括：壳体；布置在壳体内的多个手术夹子；壳体的远端部分。相邻放置的钳口；布置在壳体内以在近端位置和远端位置之间往复运动的推杆；并且布置在壳体内 推进板，该推进板用于在近侧位置和远侧位置之间往复运动。 [选型图]图1

